

# 全国高校化学グランプリ 2008

## 実施報告書

主 催 「夢・化学-21」委員会  
日本化学会化学教育協議会  
後 援 文部科学省・経済産業省  
特別協賛 独立行政法人科学技術振興機構

## 目 次

まえがき .....	3
全国高校化学グランプリ 2008 の記録	
1 「全国高校化学グランプリ 2008」概要	
1-1 一次選考実施結果 .....	4
1-2 二次選考実施結果 .....	12
1-3 表彰式 .....	15
2 選考結果	
2-1 入賞者一覧 .....	16
2-2 第 41 回国際化学オリンピックイギリス大会代表候補一覧 .....	18
3 大賞受賞者の声 .....	19
4 一次・二次選考の結果と講評	
4-1 一次選考の講評 .....	26
4-2 二次選考の講評 .....	32
5 アンケート集計結果	
5-1 一次選考参加者へのアンケートと回答結果 .....	35
5-2 二次選考参加者へのアンケートと回答結果 .....	40
6 報道記事リスト (全国高校化学グランプリ) .....	46

## 付 錄

A-1 「全国高校化学グランプリ 2008」 一次選考問題／解答例と解説 .....	50
A-2 「全国高校化学グランプリ 2008」 二次選考問題／解答例と解説 .....	76
B-1 第 40 回国際化学オリンピック実施記録 .....	87
B-2 第 40 回国際化学オリンピック参加レポート .....	91
B-3 報道記事リスト (国際化学オリンピック) .....	94
B-4 第 40 回国際化学オリンピック筆記問題 .....	99
B-5 第 40 回国際化学オリンピック実験問題 .....	114
C 平成 19 年度收支予算・実績 .....	123
D 委員会・講演等実施記録 .....	124
E 関係者一覧 .....	125

## まえがき

「全国高校化学グランプリ」(以下、化学グランプリ)は、1999年以来、毎年、全国の高校生が集う化学の競技会として開催されてきた。2008年は10回目の化学グランプリであったが、これまでで最大規模のイベントとなった。なお、本事業は「夢・化学-21」事業の一環であり、日本化学会化学教育協議会 化学グランプリ・オリンピック委員会がその運営を担当している。

2008年の化学グランプリ(全国高校化学グランプリ2008)は過去最高となる2105名の参加者を得た。まず、7月21日(月・海の日)、全国53会場で一次選考(筆記試験)が実施された。ほぼ全都道府県を網羅する形で会場が設営され、会場数は過去最高に至った。一次選考の成績上位者の内80名が、二次選考に進出することとなった。

二次選考は8月23日(土)、24日(日)にまたがる1泊2日の合宿制で実施した。一日目は、二次選考の本体である実験課題についての試験を、東京工業大学大岡山キャンパスを会場として実施した。安全面を含めての実験に関する説明の後、4時間に及ぶ実験についての試験となった。終了後、簡単な懇親会を催したが、化学を通じて同世代の仲間が集う良い機会となった。予定の時間がオーバーしても、会場のあちこちで交歓の輪が広がっていた。二日目は東京大学生産技術研究所に会場を移し、午前は化学関連研究室の施設見学と研究内容紹介、午後は実験課題の解説と総合成績発表の日程であった。午前の日程は、先端の化学研究の場で研究者から直接研究についての話を聞ける良い機会になったと思う。午後に発表された総合成績は、一次選考の結果に前日の二次選考の結果を合わせて判定されたものである。これに基づいて、大賞7名、金賞14名、銀賞19名、銅賞40名の受賞者が確定した。

各賞の表彰式(国際化学オリンピック代表候補認定式などと併催)は、9月27日(土)、化学会館ホールにて挙行された。恒例の記念講演は、加藤隆史東京大学教授(大学院工学系研究科)による「新しい液晶材料をつくる」で、先端の研究活動の展開を分かり易くお話し頂いた。受賞の生徒たちから多くの質問があり、ディスカッションはその後の懇親会でも続くこととなった。一線の研究者と直接研究についてのコミュニケーションをとることが出来る良い機会になったと思う。

化学グランプリは国際化学オリンピックの代表候補選考を兼ねている。1、2年生の成績優秀者の中から、2009年夏の第41回国際化学オリンピック(英国)代表候補として、20名を認定した。支部推薦による2名を加えた22名の代表候補は、化学グランプリ・オリンピック委員会内のオリンピック・ワーキンググループにより、さらに選抜・強化が図られることとなる。まず2009年初頭に8名程度に絞り、強化を重ねて、春には最終的な代表4名を確定する予定となっている。実験問題への特別トレーニングなど、さらに強化トレーニングを重ねた上で、夏の国際化学オリンピックに送り出すこととなっている。

10年の経験の中、化学グランプリは大きく成長し、夏を彩る若い世代のための化学のイベントとして定着してきた。こうした中で、今年も化学グランプリを大過なく開催出来たのは、多くの方々のご協力とご支援の賜物と思う。一次選考の運営に献身的なご協力をいただいた各支部の会場担当者各位、二次選考会場を担当いただいた東京工業大学関係者各位、二次選考成績発表関連行事を担当いただいた東京大学生産技術研究所関係者各位、いずれも休日を返上していただき、お力添え願うこととなった。関係各位に心より感謝申し上げる次第である。そして、文部科学省、経済産業省、科学技術振興機構、「夢・化学-21」委員会からは、「学びんピック」の認定をはじめ、財政面を含めての様々なご支援をいただいた。深謝の意を表するとともに、変わらぬご支援を期待し、本事業の健全な発展に一層の努力を払って行く所存である。

平成21年2月

日本化学会化学教育協議会  
化学グランプリ・オリンピック委員会  
委員長 藥袋 佳孝

# 全国高校化学グランプリ 2008 の記録

昨年に引き続き、全国規模で 10 回目の大会を第 41 回国際化学オリンピック (41st IChO) への代表選抜を兼ねて開催した。

主催は「夢・化学-21」委員会 ((社) 日本化学会、(社) 化学工学会、(社) 新化学発展協会、(社) 日本化学工業協会) と日本化学会化学教育協議会、実際の活動は日本化学会化学教育協議会の「化学グランプリ・オリンピック委員会」の中に「運営幹事会」、「作題 WG」、「オリンピック WG」、「普及広報 WG」を設置し、実施した。

## 1 「全国高校化学グランプリ 2008」概要

募集期間	平成 20 年 5 月 19 日 (月) ~ 6 月 20 日 (金)				
参加資格	高校生または、高校と同等の学校（高等専門学校の場合は高校相当の学年）の生徒で、20 歳未満の者				
参加費	無料				
申込方法	Web または郵送				
日 程:					
一次選考	平成 20 年 7 月 21 日 (月・祝)	全国 53 会場			
二次選考	平成 20 年 8 月 23 日 (土)・24 日 (日)	東京工業大学、東京大学			
表彰式	平成 20 年 9 月 27 日 (土)	化学会館			
主 催	「夢・化学-21」委員会、日本化学会化学教育協議会				
後 援	文部科学省、経済産業省				
特別協賛	独立行政法人科学技術振興機構				

### 1-1 一次選考実施結果

申込者数	2,383 人
参加者数	2,105 人 (欠席 278 人)

#### 申込／参加者数 学年別

	一次選考申込者数	一次選考参加者数
1 年 生	316	17.0%
2 年 生	1,002	36.9%
3 年 生	1,065	46.1%
計	2,383	
		2,105

#### 申込／参加者数 国公私別

	一次選考申込者数	一次選考参加者数
国立	167	7.0%
公立	1,322	55.5%
私立	894	37.5%
計	2,383	
		2,105

**申込／参加者数 男女別**

	一次選考申込者数		一次選考参加者数	
男	1,756	73.7%	1,566	74.4%
女	627	26.3%	539	25.6%
計	2,383		2,105	

**申込／参加者数 申込方法別**

申込方法	一次選考申込者数		一次選考参加者数	
Web（個人）	517	21.6%	453	21.5%
Web（学校）	605	25.3%	522	24.8%
郵送	1,264	53.1%	1,130	53.7%
計	2,383		2,105	

**一次選考参加者 都道府県別**

(所属高校所在地による)

	都道府県/参加人数/%	都道府県/参加人数/%
1 北海道	68 3.2%	26 2.4%
2 青森県	43 2.0%	27 3.3%
3 岩手県	62 2.9%	28 3.2%
4 宮城県	104 4.9%	29 1.0%
5 秋田県	45 2.1%	30 0.4%
6 山形県	9 0.4%	31 0.5%
7 福島県	72 3.4%	32 0.6%
8 茨城県	38 1.8%	33 1.3%
9 栃木県	14 0.7%	34 1.7%
10 群馬県	119 5.7%	35 1.1%
11 埼玉県	54 2.6%	36 1.5%
12 千葉県	30 1.4%	37 0.4%
13 東京都	225 10.7%	38 3.6%
14 神奈川県	39 1.9%	39 1.1%
15 新潟県	7 0.3%	40 2.5%
16 富山県	41 1.9%	41 1.9%
17 石川県	46 2.2%	42 0.6%
18 福井県	15 0.7%	43 2.9%
19 山梨県	65 3.1%	44 0.9%
20 長野県	31 1.5%	45 2.2%
21 岐阜県	29 1.4%	46 1.8%
22 静岡県	58 2.8%	47 0.7%
23 愛知県	123 5.8%	海外 0.0%
24 三重県	14 0.7%	
25 滋賀県	3 0.1%	計 2,105 名

一次選考参加者数 会場別 (全 53 会場)

No.	会場名	会場場所	人数	%
1	札幌	北海道大学	58	2.8%
2	旭川	北海道教育大学旭川校	11	0.5%
3	北見	北見工業大学	0	0.0%
4	青森	弘前大学	44	2.1%
5	岩手	岩手大学	82	3.9%
6	宮城	東北大学青葉山キャンパス	104	4.9%
7	秋田	秋田大学手形キャンパス	44	2.1%
8	山形	山形大学小白川キャンパス	9	0.4%
9	福島第1	福島県立安積高等学校	28	1.3%
10	福島第2	福島工業高等専門学校	23	1.1%
11	茨城	茨城大学水戸キャンパス	35	1.7%
12	栃木	宇都宮大学陽東キャンパス	11	0.5%
13	群馬	群馬大学桐生キャンパス	122	5.8%
14	埼玉第1	埼玉大学	33	1.6%
15	埼玉第2	早稲田大学本庄キャンパス	27	1.3%
16	千葉	東邦大学習志野キャンパス	34	1.6%
17	東京第1	日本化学会	144	6.8%
18	東京第2	東京農工大学小金井キャンパス	50	2.4%
19	神奈川	横浜国立大学	62	2.9%
20	新潟第1	新潟大学五十嵐キャンパス	1	0.0%
21	新潟第2	長岡技術科学大学	6	0.3%
22	富山	富山県立高岡高等学校	41	1.9%
23	石川	金沢大学角間キャンパス	46	2.2%
24	福井	福井大学文京キャンパス	15	0.7%
25	山梨	山梨大学甲府キャンパス	66	3.1%
26	長野	信州大学松本キャンパス	31	1.5%
27	岐阜第1	岐阜大学	26	1.2%
28	岐阜第2	岐阜県立恵那高等学校	3	0.1%
29	静岡第1	静岡大学静岡キャンパス	41	1.9%
30	静岡第2	静岡大学浜松キャンパス	17	0.8%
31	愛知	名古屋大学東山地区	129	6.1%
32	三重	三重大学	12	0.6%
33	京都	京都教育大学	58	2.8%
34	大阪	大阪星光学院高等学校	154	7.3%
35	鳥取	鳥取大学	4	0.2%
36	島根	島根大学	18	0.9%
37	岡山	岡山大学	35	1.7%
38	広島	広島大学	35	1.7%
39	山口	山口大学吉田キャンパス	23	1.1%
40	徳島	徳島大学	39	1.9%
41	愛媛	愛媛大学	76	3.6%
42	高知	高知大学朝倉キャンパス	24	1.1%
43	福岡第1	福岡教育大学	33	1.6%
44	福岡第2	久留米工業高等専門学校	5	0.2%
45	福岡第3	近畿大学福岡キャンパス	15	0.7%
46	佐賀	佐賀大学本庄キャンパス	42	2.0%
47	長崎第1	長崎大学文教キャンパス	12	0.6%
48	長崎第2	佐世保工業高等専門学校	1	0.0%
49	熊本	熊本大学黒髪南地区	62	2.9%
50	大分	大分大学旦野原キャンパス	19	0.9%
51	宮崎	宮崎大学木花キャンパス	47	2.2%
52	鹿児島	鹿児島大学郡元キャンパス	33	1.6%
53	沖縄	琉球大学千原キャンパス	15	0.7%

**一次選考参加者 高校一覧**

No.	都道府県	国公私	学校名	No.	都道府県	国公私	学校名
1	北海道	公	北海道旭川東高等学校	41	茨城県	公	茨城県立日立第一高等学校
2	北海道	公	北海道岩見沢東高等学校	42	茨城県	公	茨城県立鉾田第一高等学校
3	北海道	公	北海道札幌西高等学校	43	茨城県	国	茨城工業高等専門学校
4	北海道	公	北海道大麻高等学校	44	茨城県	私	茨城高等学校
5	北海道	公	北海道浜頓別高等学校	45	茨城県	私	常総学院高等学校
6	北海道	私	札幌第一高等学校	46	茨城県	私	清真学園高等学校
7	北海道	私	北嶺高等学校	47	栃木県	公	栃木県立宇都宮高等学校
8	青森県	公	青森県立青森東高等学校	48	栃木県	公	栃木県立大田原高等学校
9	岩手県	公	岩手県立釜石高等学校	49	栃木県	公	栃木県立栃木翔南高等学校
10	岩手県	公	岩手県立盛岡第一高等学校	50	栃木県	私	佐野日本大学高等学校
11	岩手県	公	岩手県立盛岡第三高等学校	51	栃木県	私	作新学院高等学校
12	岩手県	国	一関工業高等専門学校	52	栃木県	私	那須高原海城高等学校
13	宮城県	公	宮城県気仙沼高等学校	53	群馬県	公	群馬県立桐生高等学校
14	宮城県	公	宮城県宮城第一高等学校	54	群馬県	公	群馬県立前橋高等学校
15	宮城県	公	宮城県仙台第一高等学校	55	群馬県	国	群馬工業高等専門学校
16	宮城県	公	宮城県仙台第二高等学校	56	群馬県	私	明照学園樹徳高等学校
17	宮城県	公	宮城県仙台南高等学校	57	埼玉県	公	埼玉県立伊奈学園総合高等学校
18	宮城県	公	宮城県泉館山高等学校	58	埼玉県	公	埼玉県立坂戸高等学校
19	宮城県	公	宮城県立仙台第三高等学校	59	埼玉県	公	埼玉県立大宮高等学校
20	宮城県	私	古川学園高等学校	60	埼玉県	公	埼玉県立不動岡高等学校
21	宮城県	私	秀光高等学校	61	埼玉県	公	埼玉県立和光国際高等学校
22	宮城県	私	秀光中等教育学校	62	埼玉県	私	栄東高等学校
23	宮城県	私	尚絅学院高等学校	63	埼玉県	私	開智学園高等部
24	宮城県	私	聖和学園高等学校	64	埼玉県	私	開智学園中高一貫部
25	宮城県	私	仙台白百合学園高等学校	65	埼玉県	私	狹山ヶ丘高等学校
26	秋田県	公	秋田県立横手高等学校	66	埼玉県	私	淑徳与野高等学校
27	秋田県	公	秋田県立秋田高等学校	67	埼玉県	私	春日部共栄高等学校
28	秋田県	公	秋田県立大館鳳鳴高等学校	68	埼玉県	私	早稲田大本庄高等学院
29	山形県	公	山形県立寒河江高等学校	69	埼玉県	私	大妻嵐山高等学校
30	山形県	公	山形県立山形東高等学校	70	埼玉県	私	立教新座高等学校
31	山形県	公	山形県立米沢興譲館高等学校	71	千葉県	公	千葉県立千葉高等学校
32	山形県	国	山形東高等学校	72	千葉県	公	千葉県立柏中央高等学校
33	山形県	国	鶴岡工業高等専門学校	73	千葉県	公	千葉市立千葉高等学校
34	福島県	公	福島県立安積高等学校	74	千葉県	私	芝浦工業大学柏高等学校
35	福島県	公	福島県立相馬高等学校	75	千葉県	私	渋谷教育学園幕張高等学校
36	福島県	公	福島県立福島工業高等学校	76	千葉県	私	東邦大学付属東邦高等学校
37	福島県	国	福島工業高等専門学校	77	東京都	公	東京都立科学技術高等学校
38	福島県	私	福島成蹊高等学校	78	東京都	公	東京都立葛西南高等学校
39	茨城県	公	茨城県立水戸第一高等学校	79	東京都	公	東京都立国分寺高等学校
40	茨城県	公	茨城県立水戸第二高等学校	80	東京都	公	東京都立国立高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
81	東京都	公	東京都立小石川高等学校
82	東京都	公	東京都立新宿山吹高等学校
83	東京都	公	東京都立西高等学校
84	東京都	公	東京都立青山高等学校
85	東京都	公	東京都立日比谷高等学校
86	東京都	公	東京都立日野台高等学校
87	東京都	公	東京都立八王子東高等学校
88	東京都	公	東京都立両国高等学校
89	東京都	国	筑波大学附属駒場高等学校
90	東京都	国	筑波大学附属高等学校
91	東京都	国	東京学芸大学附属高等学校
92	東京都	国	東京工業高等専門学校
93	東京都	国	東京工業大学附属科学技術高等学校
94	東京都	国	東京大学教育学部附属中等教育学校
95	東京都	私	駿明館高等学校
96	東京都	私	海城高等学校
97	東京都	私	開成高等学校
98	東京都	私	吉祥女子高等学校
99	東京都	私	共立女子高等学校
100	東京都	私	桐朋女子高等学校
101	東京都	私	駒場東邦高等学校
102	東京都	私	光塩高等学校
103	東京都	私	攻玉社高等学校
104	東京都	私	晃華学園高等学校
105	東京都	私	国際基督教大学高等学校
106	東京都	私	国士館高等学校
107	東京都	私	桜蔭高等学校
108	東京都	私	渋谷教育学園渋谷高等学校
109	東京都	私	淑徳高等学校
110	東京都	私	淑徳巢鴨高等学校
111	東京都	私	女子学院高等学校
112	東京都	私	城北学園高等学校
113	東京都	私	星美学園高等学校
114	東京都	私	聖徳学園高等学校
115	東京都	私	創価高等学校
116	東京都	私	早稲田高等学校
117	東京都	私	早稲田大学高等学院
118	東京都	私	多摩大学附属聖ヶ丘高等学校
119	東京都	私	多摩大学目黒高等学校
120	東京都	私	東京女学館高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
121	東京都	私	東京農業大学第一高等学校
122	東京都	私	白百合学園高等学校
123	東京都	私	武藏工業大学付属高等学校
124	東京都	私	豊島岡女子学園高等学校
125	東京都	私	本郷高等学校
126	東京都	私	麻布高等学校
127	東京都	私	立教女学院高等学校
128	東京都	私	立教池袋高等学校
129	東京都	私	國學院高等学校
130	東京都	私	國學院大學久我山高等学校
131	神奈川県	公	神奈川県立横須賀高等学校
132	神奈川県	公	神奈川県立横須賀総合高等学校
133	神奈川県	公	神奈川県立横浜翠嵐高等学校
134	神奈川県	公	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校
135	神奈川県	公	神奈川県立光陵高等学校
136	神奈川県	公	神奈川県立湘南高等学校
137	神奈川県	公	神奈川県立西湘高等学校
138	神奈川県	公	神奈川県立多摩高等学校
139	神奈川県	私	カリタス女子高等学校
140	神奈川県	私	フェリス女学院高等学校
141	神奈川県	私	栄光学園高等学校
142	神奈川県	私	横浜共立学園高等学校
143	神奈川県	私	鎌倉学園高等学校
144	神奈川県	私	桐蔭学園高等学校
145	神奈川県	私	桐蔭学園中等教育学校
146	神奈川県	私	慶應義塾高等学校
147	神奈川県	私	山手学院高等学校
148	神奈川県	私	逗子開成高等学校
149	神奈川県	私	洗足学園高等学校
150	神奈川県	私	搜真女学校高等学部
151	神奈川県	私	北鎌倉女子学園高等学校
152	新潟県	国	長岡工業高等専門学校
153	富山県	公	富山県立高岡高等学校
154	富山県	公	富山県立富山中部高等学校
155	石川県	公	石川県立金沢泉丘高等学校
156	石川県	公	石川県立七尾高等学校
157	石川県	公	石川県立小松高等学校
158	石川県	国	金沢大学附属高等学校
159	福井県	公	福井県立高志高等学校
160	福井県	公	福井県立藤島高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
161	福井県	公	福井県立武生高等学校
162	福井県	国	福井工業高等専門学校
163	山梨県	公	山梨県立吉田高等学校
164	山梨県	公	山梨県立甲府西高等学校
165	山梨県	公	山梨県立甲府第一高等学校
166	山梨県	公	山梨県立甲府南高等学校
167	山梨県	公	山梨県立日川高等学校
168	山梨県	私	山梨学院大学附属高等学校
169	山梨県	私	駿台甲府高等学校
170	長野県	公	長野県松本県ヶ丘高等学校
171	長野県	公	長野県松本深志高等学校
172	長野県	公	長野県諏訪清陵高等学校
173	長野県	公	長野県飯山北高等学校
174	長野県	公	長野県豊科高等学校
175	長野県	私	東海大学付属第三高等学校
176	岐阜県	公	岐阜県立岐山高等学校
177	岐阜県	公	岐阜県立岐阜高等学校
178	岐阜県	公	岐阜県立岐阜北高等学校
179	岐阜県	公	岐阜県立恵那高等学校
180	静岡県	公	静岡県立清水東高等学校
181	静岡県	公	静岡県立磐田南高等学校
182	静岡県	公	静岡県立浜松西高等学校
183	静岡県	公	静岡県立浜松北高等学校
184	静岡県	公	浜松市立高等学校
185	静岡県	国	沼津工業高等専門学校
186	静岡県	私	静岡雙葉高等学校
187	愛知県	公	愛知県立一宮高等学校
188	愛知県	公	愛知県立岡崎高等学校
189	愛知県	公	愛知県立岡崎西高等学校
190	愛知県	公	愛知県立五条高等学校
191	愛知県	公	愛知県立時習館高等学校
192	愛知県	公	愛知県立豊田工業高等学校
193	愛知県	公	愛知県立明和高等学校
194	愛知県	公	名古屋市立向陽高等学校
195	愛知県	国	愛知教育大学附属高等学校
196	愛知県	国	名古屋大学教育学部附属高等学校
197	愛知県	私	東海高等学校
198	愛知県	私	南山高等学校
199	三重県	公	三重県立桑名高等学校
200	三重県	公	三重県立四日市高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
200	三重県	公	三重県立四日市高等学校
201	三重県	公	三重県立松阪高等学校
202	三重県	公	三重県立津高等学校
203	三重県	公	三重県立立松阪高等学校
204	三重県	私	暁高等学校
205	三重県	私	高田高等学校
206	滋賀県	公	滋賀県立高島高等学校
207	滋賀県	私	立命館守山高等学校
208	京都府	公	京都府立亀岡高等学校
209	京都府	公	京都府立嵯峨野高等学校
210	京都府	公	京都府立桃山高等学校
211	京都府	私	京都女子高等学校
212	京都府	私	洛南高等学校
213	京都府	私	立命館宇治高等学校
214	大阪府	公	大阪府立岸和田高等学校
215	大阪府	公	大阪府立高津高等学校
216	大阪府	公	大阪府立山本高等学校
217	大阪府	公	大阪府立住吉高等学校
218	大阪府	公	大阪府立生野高等学校
219	大阪府	公	大阪府立千里高等学校
220	大阪府	公	大阪府立大手前高等学校
221	大阪府	公	大阪府立天王寺高等学校
222	大阪府	公	大阪府立北野高等学校
223	大阪府	国	大阪教育大学教育学部附属高等学校
224	大阪府	私	関西創価高等学校
225	大阪府	私	金蘭千里高等学校
226	大阪府	私	高槻高等学校
227	大阪府	私	清風南海高等学校
228	大阪府	私	千里国際学園高等部
229	大阪府	私	大阪桐蔭高等学校
230	大阪府	私	大阪星光学院高等学校
231	大阪府	私	履正社高等学校
232	兵庫県	公	神戸市立工業高等専門学校
233	兵庫県	公	兵庫県立加古川東高等学校
234	兵庫県	公	兵庫県立洲本高等学校
235	兵庫県	公	兵庫県立神戸高等学校
236	兵庫県	公	兵庫県立淡路三原高等学校
237	兵庫県	公	兵庫県立八鹿高等学校
238	兵庫県	公	兵庫県立豊岡高等学校
239	兵庫県	公	兵庫県立夢野台高等学校
240	兵庫県	私	甲陽学院高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
241	兵庫県	私	甲陽高等学校
242	兵庫県	私	淳心学院高等学校
243	兵庫県	私	神戸海星女子学院高等学校
244	兵庫県	私	灘高等学校
245	兵庫県	私	白陵高等学校
246	兵庫県	私	武庫川女子大学附属高等学校
247	兵庫県	私	六甲高等学校
248	奈良県	公	奈良県立奈良高等学校
249	奈良県	国	奈良工業高等専門学校
250	奈良県	私	西大和学園高等学校
251	奈良県	私	帝塚山高等学校
252	奈良県	私	東大寺学園高等学校
253	奈良県	私	奈良学園高等学校
254	和歌山県	公	和歌山県立海南高等学校
255	和歌山県	公	和歌山県立向陽高等学校
256	和歌山県	私	智辯学園和歌山高等学校
257	和歌山県	私	和歌山信愛女子短期大学附属高等学校
258	鳥取県	公	鳥取県立倉吉東高等学校
259	鳥取県	公	鳥取県立鳥取西高等学校
260	鳥取県	公	鳥取県立米子東高等学校
261	鳥取県	国	米子工業高等専門学校
262	島根県	公	島根県立松江東高等学校
263	島根県	私	開星高等学校
264	岡山県	公	岡山県立岡山朝日高等学校
265	岡山県	公	岡山県立玉島高等学院
266	岡山県	公	岡山県立新見高等学校
267	岡山県	公	岡山県立倉敷天城高等学校
268	岡山県	私	岡山白陵高等学校
269	岡山県	私	金光学園高等学校
270	広島県	公	広島県立広高等学校
271	広島県	公	広島県立広島国泰寺高等学校
272	広島県	公	広島市立舟入高等学校
273	広島県	国	広島大学附属高等学校
274	広島県	私	広島学院高等学校
275	山口県	公	山口県立宇部高等学校
276	山口県	公	山口県立山口高等学校
277	山口県	公	山口県立徳山高等学校
278	山口県	私	宇部フロンティア大学付属香川高等学校
279	徳島県	公	徳島県立城ノ内高等学校
280	徳島県	公	徳島県立城南高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
281	徳島県	公	徳島県立城北高等学校
282	徳島県	公	徳島県立富岡西高等学校
283	徳島県	私	徳島文理高等学校
284	香川県	公	香川県立観音寺第一高等学校
285	香川県	公	香川県立丸亀高等学校
286	香川県	公	香川県立土庄高等学校
287	香川県	公	香川県立高松高等学校
288	香川県	私	英明高等学校
289	愛媛県	公	愛媛県立宇和島南中等教育学校
290	愛媛県	公	愛媛県立今治西高等学校
291	愛媛県	公	愛媛県立松山西中等教育学校
292	愛媛県	公	愛媛県立松山東高等学校
293	愛媛県	公	愛媛県立松山南高等学校
294	愛媛県	公	愛媛県立松山北高等学校
295	愛媛県	公	愛媛県立大洲高等学校
296	愛媛県	公	愛媛県立八幡浜高等学校
297	愛媛県	国	新居浜工業高等専門学校
298	愛媛県	私	済美高等学校
299	高知県	私	土佐女子中学高等学校
300	福岡県	公	福岡県立鞍手高等学校
301	福岡県	公	福岡県立嘉穂高等学校
302	福岡県	公	福岡県立修猷館高等学校
303	福岡県	公	福岡県立筑紫丘高等学校
304	福岡県	公	福岡県立筑紫高等学校
305	福岡県	公	福岡県立筑前高等学校
306	福岡県	公	福岡県立朝倉高等学校
307	福岡県	公	福岡県立東筑高等学校
308	福岡県	公	福岡県立福岡高等学校
309	福岡県	国	北九州工業高等専門学校
310	福岡県	国	有明工業高等専門学校
311	福岡県	私	久留米信愛女学院高等学校
312	福岡県	私	九州国際大学付属高等学校
313	福岡県	私	東福岡高等学校
314	福岡県	私	福岡大学附属大濠高等学校
315	福岡県	私	福岡舞鶴高等学校
316	福岡県	私	明治学園高等学校
317	佐賀県	公	佐賀県立佐賀西高等学校
318	佐賀県	公	佐賀県立致遠館高等学校
319	佐賀県	公	佐賀県立武雄高等学校
320	佐賀県	私	弘学館高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
321	長崎県	公	長崎県立長崎東高等学校
322	長崎県	公	長崎県立猶興館高等学校
323	長崎県	公	長崎県立諫早高等学校
324	熊本県	公	熊本県立阿蘇高等学校
325	熊本県	公	熊本県立宇土高等学校
326	熊本県	公	熊本県立菊池高等学校
327	熊本県	公	熊本県立玉名工業高等学校
328	熊本県	公	熊本県立熊本北高等学校
329	熊本県	公	熊本県立済々黌高等学校
330	熊本県	公	熊本県立第一高等学校
331	熊本県	公	熊本県立第二高等学校
332	熊本県	公	熊本県立天草高等学校
333	熊本県	私	秀岳館高等学校
334	大分県	公	大分県立大分舞鶴高等学校
335	大分県	国	大分工業高等専門学校
336	宮崎県	公	宮崎県立延岡高等学校
337	宮崎県	公	宮崎県立延岡星雲高等学校
338	宮崎県	公	宮崎県立宮崎大宮高等学校
339	宮崎県	公	宮崎県立宮崎北高等学校
340	宮崎県	公	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
341	宮崎県	国	都城工業高等専門学校
342	宮崎県	私	宮崎第一高等学校
343	宮崎県	私	宮崎日本大学高等学校
344	宮崎県	私	日向学院高等学校
345	鹿児島県	公	鹿児島県立川内高等学校
346	鹿児島県	私	ラ・サール高等学校
347	鹿児島県	私	志學館高等部
348	鹿児島県	私	鹿児島高等学校
349	鹿児島県	私	鹿児島修学館高等学校
350	鹿児島県	私	池田高等学校
351	沖縄県	公	沖縄県立向陽高等学校
352	沖縄県	私	沖縄尚学高等学校
353	沖縄県	私	昭和薬科大学附属高等学校

(全 353 校)



## 1-2 二次選考実施結果

選出者数 80 人  
参加者数 80 人（欠席 0 人）

### 二次選考合宿概要

日 時 平成 20 年 8 月 23 日(土)・24 日(日)  
会 場 実験会場：東京工業大学大岡山キャンパス（東京都目黒区）  
施設見学会：東京大学生産技術研究所（同上）  
宿泊施設：こまばエミナース（同上）

#### 8 月 23 日（土）

11:00～12:00 受付（東京工業大学大岡山キャンパス）  
12:00～12:25 オリエンテーション－実験の注意事項  
12:30～16:30 二次選考（実験試験）  
16:45～17:00 オリエンテーション－今後の予定  
17:00～19:00 宿泊施設へ移動（バス）、チェックイン、自由時間  
19:00～20:30 懇親会  
20:30 解散、自由時間

#### 8 月 24 日（日）

7:00～ 8:55 朝食、チェックアウト  
9:00～ 9:25 集合、東京大学生産技術研究所へ移動  
9:30～10:00 オリエンテーション  
10:00～12:00 東京大学生産技術研究所 研究室見学  
12:00～13:00 昼食  
13:00～14:00 講評、結果発表  
14:30 解散

### 参加者数 学年別

	二次選考参加者数	
1 年 生	4	5%
2 年 生	20	25%
3 年 生	56	70%
計	80	

### 参加者数 男女別

	二次選考参加者数	
男	74	92.5%
女	6	7.5%
計	80	

### 申込／参加者数 国公私別

	二次選考参加者数	
国立	6	7.5%
公立	26	32.5%
私立	48	60%
計	80	

二次選考参加者 都道府県別			(所属高校所在地による集計)		
都道府県/参加人数/%			都道府県/参加人数/%		
北海道	1	1.3%	愛知県	9	11.3%
宮城県	2	2.5%	三重県	2	2.5%
秋田県	1	1.3%	京都府	1	1.3%
茨城県	1	1.3%	大阪府	8	10.0%
群馬県	1	1.3%	兵庫県	8	10.0%
東京都	19	23.8%	奈良県	3	3.8%
神奈川県	4	5.0%	広島県	4	5.0%
富山県	1	1.3%	愛媛県	2	2.5%
石川県	3	3.8%	福岡県	3	3.8%
山梨県	4	5.0%	鹿児島県	2	2.5%
岐阜県	1	1.3%			
			計 80 名		

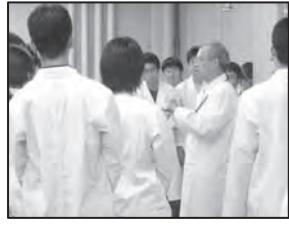
参加者のいない都道府県：

青森県、岩手県、山形県、福島県、栃木県、埼玉県、千葉県、新潟県、福井県、長野県、静岡県、滋賀県、和歌山县、鳥取県、島根県、岡山県、山口県、徳島県、香川県、高知県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、沖縄県（以上 26 県）

## 二次選考参加者 高校一覧

No.	都道府県	国公私	学校名
1	北海道	私	北嶺高等学校
2	宮城県	公	宮城県仙台第二高等学校
3	秋田県	公	秋田県立横手高等学校
4	茨城県	私	常総学院高等学校
5	群馬県	公	群馬県立桐生高等学校
6	東京都	私	海城高等学校
7	東京都	私	攻玉社高等学校
8	東京都	国	筑波大学附属高等学校
9	東京都	国	東京学芸大学附属高等学校
10	東京都	私	駒場東邦高等学校
11	東京都	私	開成高等学校
12	東京都	私	創価高等学校
13	東京都	国	筑波大学附属駒場高等学校
14	東京都	私	麻布高等学校
15	神奈川県	私	フェリス女学院高等学校
16	神奈川県	私	栄光学園高等学校
17	神奈川県	公	神奈川県立横浜翠嵐高等学校
18	神奈川県	公	神奈川県立多摩高等学校
19	富山県	公	富山県立富山中部高等学校
20	石川県	公	石川県立金沢泉丘高等学校
21	山梨県	公	山梨県立吉田高等学校
22	山梨県	私	山梨学院大学附属高等学校
23	山梨県	私	駿台甲府高等学校
24	岐阜県	公	岐阜県立岐阜高等学校
25	愛知県	公	愛知県立岡崎高等学校
26	愛知県	私	東海高等学校
27	愛知県	公	愛知県立一宮高等学校
28	三重県	私	高田高等学校
29	京都府	公	京都府立嵯峨野高等学校
30	大阪府	私	千里国際学園高等部
31	大阪府	公	大阪府立天王寺高等学校
32	大阪府	公	大阪府立大手前高等学校
33	大阪府	私	大阪星光学院高等学校
34	兵庫県	私	甲陽学院高等学校
35	兵庫県	公	兵庫県立八鹿高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名
36	兵庫県	私	白陵高等学校
37	兵庫県	私	灘高等学校
38	奈良県	私	東大寺学園高等学校
39	広島県	私	広島学院高等学校
40	愛媛県	公	愛媛県立松山西中等教育学校
41	愛媛県	公	愛媛県立松山東高等学校
42	福岡県	私	東福岡高等学校
43	福岡県	私	福岡大学附属大濠高等学校
44	福岡県	国	北九州工業高等専門学校
45	鹿児島県	私	ラ・サール高等学校



### 1-3 表彰式

#### 「全国高校化学グランプリ 2008」表彰式

※「第 40 回国際化学オリンピックハンガリー大会」参加報告会、「第 41 回国際化学オリンピックイギリス大会」代表候補認定式と同時開催

日 時	2008 年 9 月 27 日 (土) 13:00~15:45
場 所	化学会館 7 階ホール (東京都千代田区神田駿河台 1-5)
式次第	
13:00	開会・主催者・来賓挨拶
13:35	「全国高校化学グランプリ 2008」表彰式
13:55	「第 40 回国際化学オリンピックハンガリー大会」参加報告会
14:10	「第 41 回国際化学オリンピックイギリス大会」代表候補認定式
14:25	記念撮影 「全国高校化学グランプリ」シンボルマーク披露
14:45	講演会「新しい液晶材料をつくる」 加藤 隆史先生 (東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻教授)
15:45	閉会

#### 出席者

「全国高校化学グランプリ 2008」大賞受賞者 7 名、金賞受賞者 12 名

「第 40 回国際化学オリンピックハンガリー大会」日本代表生徒 4 名

「第 41 回国際化学オリンピックイギリス大会」代表候補 20 名

(※大賞・金賞等受賞者、代表候補一覧は「2-2 選考結果」参照)

#### 来 賓

川端 和明	文部科学省 科学技術・学術政策局基盤政策課長
高田 修三	経済産業省 製造産業局化学課長
加藤 芳宏	独立行政法人科学技術振興機構 理数学習支援部先端学習支援課長

#### 主 催 者

中西 宏幸	日本化学会会長
西出 徹雄	日本化学工業協会専務理事
正野 寛治	化学工学会会長
市川 南	新化学発展協会専務理事
井上 祥平	日本化学会化学教育協議会議長
葉袋 佳孝	日本化学会化学教育協議会 化学グランプリ・オリンピック委員会委員長
米澤 宣行	日本化学会化学教育協議会 化学グランプリ・オリンピック委員会 オリンピックワーキンググループ主査

## 2 選考結果

### 2-1 入賞者一覧

#### 大賞 (7名)

鈴木 裕太 (すずき ゆうた)  
足立 精宏 (あだち きよひろ)  
来見田 遙一 (くるみだ よういち)  
馬場 皆人 (ばば みなと)  
小澤 直也 (おざわ なおや)  
矢部 顕大 (やべ あきひろ)  
井手野 泰久 (いでの やすひさ)

※学校名、学年は平成 20 年 9 月時点

宮城県仙台第二高等学校 3 年  
筑波大学附属高等学校 3 年  
神奈川県立多摩高等学校 3 年  
海城高等学校 3 年  
駒場東邦高等学校 2 年  
開成高等学校 3 年  
大阪府立大手前高等学校 3 年

#### 金賞 (14名)

福島 正哉 (ふくしま まさや)  
田中 晋太朗 (たなか しんたろう)  
中田 拓見 (なかた たくみ)  
松川 淑 (まつかわ こう)  
中條 淳博 (なかじょう あつひろ)  
下川 隆一 (しもがわ りゅういち)  
谷 恭平 (たに きょうへい)  
松本 周晃 (まつもと ひろあき)  
金久保 祐介 (かなくぼ ゆうすけ)  
安田 真由美 (やすだ まゆみ)  
新家 和真 (にいのみ かずま)  
阿部 達也 (あべ たつや)  
濱崎 真夏 (はまざき まなつ)  
古橋 正樹 (ふるはし まさき)

富山県立富山中部高等学校 3 年  
石川県立金沢泉丘高等学校 3 年  
広島学院高等学校 3 年  
駒場東邦高等学校 3 年  
東大寺学園高等学校 2 年  
攻玉社高等学校 3 年  
東海高等学校 3 年  
広島学院高等学校 3 年  
常総学院高等学校 3 年  
白陵高等学校 2 年  
愛知県立岡崎高等学校 3 年  
秋田県立横手高等学校 3 年  
フェリス女学院高等学校 3 年  
高田高等学校 3 年

#### 銀賞 (19名)

松井 大祐 (まつい だいすけ)  
福田 朝 (ふくだ はじめ)  
鈴木 健一郎 (すずき けんいちろう)  
橋本 大樹 (はしもと だいき)  
山崎 高寛 (やまざき たかひろ)  
竹田 大樹 (たけだ だいき)  
原田 耕佑 (はらだ こうすけ)  
高木 雅 (たかぎ まさる)  
辻 俊輔 (つじ しゅんすけ)  
子安 秀昇 (こやす ひでのり)  
斎藤 由樹 (さいとう ゆうき)  
森永 哲成 (もりなが あきなり)  
高橋 純平 (たかはし じゅんぺい)  
江口 基紀 (えぐち もとき)  
遠藤 健一 (えんどう けんいち)

大阪星光学院高等学校 3 年  
筑波大学附属駒場高等学校 2 年  
愛知県立一宮高等学校 3 年  
愛知県立一宮高等学校 3 年  
宮城県仙台第二高等学校 3 年  
石川県立金沢泉丘高等学校 3 年  
開成高等学校 2 年  
大阪府立大手前高等学校 3 年  
大阪星光学院高等学校 3 年  
愛知県立一宮高等学校 3 年  
駿台甲府高等学校 3 年  
東福岡高等学校 3 年  
灘高等学校 3 年  
石川県立金沢泉丘高等学校 3 年  
栄光学園高等学校 1 年

伊藤 俊 (いとう すぐる)	愛知県立一宮高等学校	2年
吉田 裕治 (よしだ ゆうじ)	灘高等学校	1年
塚田 淑 (つかだ ひろむ)	甲陽学院高等学校	2年
来山 拓海 (きたやま たくみ)	神奈川県立横浜翠嵐高等学校	3年

#### 銅賞 (40名)

荒井 篤 (あらい あつし)	大阪星光学院高等学校	3年
大橋 和也 (おおはし かずや)	愛知県立一宮高等学校	3年
梶原 健 (かじわら けん)	東京学芸大学附属高等学校	3年
松本 弘樹 (まつもと ひろき)	東大寺学園高等学校	2年
小林 朝瑛 (こばやし ともあき)	開成高等学校	2年
高木 彰文 (たかぎ あきふみ)	群馬県立桐生高等学校	3年
永澤 彩 (えいざわ あや)	白陵高等学校	2年
高村 建人 (たかむら けんと)	山梨県立吉田高等学校	3年
石崎 英治 (いしざき えいじ)	創価高等学校	3年
石橋 龍 (いしばし りゅう)	灘高等学校	2年
春日井 大介 (かすがい だいすけ)	東海高等学校	3年
桐原 亮平 (きりはら りょうへい)	山梨学院大学附属高等学校	3年
片岡 憲吾 (かたおか けんご)	筑波大学附属駒場高等学校	1年
佐藤 誠修 (さとう まさのぶ)	北嶺高等学校	2年
西川 知里 (にしかわ ちさと)	高田高等学校	3年
鈴木 良平 (すずき りょうへい)	筑波大学附属駒場高等学校	2年
伊吹 博人 (いぶき ひろと)	京都府立嵯峨野高等学校	2年
笹川 一 (ささがわ はじめ)	大阪府立天王寺高等学校	2年
原 萌 (はら めぐみ)	駿台甲府高等学校	3年
椋田 悠介 (むくた ゆうすけ)	麻布高等学校	3年
徳永 泰介 (とくなが たいすけ)	福岡大学附属大濠高等学校	3年
請川 智哉 (うけがわ ともや)	愛知県立一宮高等学校	3年
田辺 健児 (たなべ けんじ)	創価高等学校	3年
藤原 慎一 (ふじわら しんいち)	兵庫県立八鹿高等学校	3年
石田 真一郎 (いしだ しんいちろう)	広島学院高等学校	3年
木田 悠歩 (きだ ゆうほ)	麻布高等学校	3年
古川 孝太郎 (ふるかわ こうたろう)	岐阜県立岐阜高等学校	3年
二宮 良 (にのみや りょう)	ラ・サール高等学校	3年
重田 晃輝 (しげた こうき)	広島学院高等学校	1年
矢野 洋祐 (やの ようすけ)	愛媛県立松山西中等教育学校	3年
遠山 龍 (とおやま りゅう)	麻布高等学校	3年
中村 智輝 (なかむら ともき)	大阪星光学院高等学校	2年
河田 大輔 (かわた だいすけ)	東大寺学園高等学校	3年
石神 宥真 (いしがみ ゆうま)	千里国際学園高等部	3年
大瀧 和紀 (おおたき かづき)	麻布高等学校	3年
寺岡 晃一 (てらおか こういち)	北九州工業高等専門学校	2年
鳥居 萌 (とりい めぐみ)	創価高等学校	2年

野元 彰 (のもと あきら)	ラ・サール高等学校	3年
中川 佳史 (なかがわ よしふみ)	灘高等学校	2年
越智 裕紀 (おち ひろのり)	愛媛県立松山東高等学校	2年

## 2-2 第41回国際化学オリンピックイギリス大会代表候補一覧

「全国高校化学グランプリ 2008」の参加者から20人と、日本化学会化学教育協議会全7支部（北海道、東北、関東、東海、近畿、中国四国、九州）の中で、選出された生徒のいなかった2支部よりそれぞれ推薦された2人を、第41回国際化学オリンピックイギリス大会代表候補として決定した。

石橋 龍 (いしばし りゅう)	灘高等学校	2年
伊藤 俊 (いとう すぐる)	愛知県立一宮高等学校	2年
伊吹 博人 (いぶき ひろと)	京都府立嵯峨野高等学校	2年
永澤 彩 (えいざわ あや)	白陵高等学校	2年
遠藤 健一 (えんどう けんいち)	栄光学園高等学校	1年
小澤 直也 (おざわ なおや)	駒場東邦高等学校	2年
小田 望 (おだ のぞむ)	宮城県仙台第二高等学校	2年
片岡 憲吾 (かたおか けんご)	筑波大学附属駒場高等学校	1年
小林 朝瑛 (こばやし ともあき)	開成高等学校	2年
笛川 一 (ささがわ はじめ)	大阪府立天王寺高等学校	2年
佐藤 誠修 (さとう まさのぶ)	北嶺高等学校	2年
重田 晃輝 (しげた こうき)	広島学院高等学校	1年
鈴木 良平 (すずき りょうへい)	筑波大学附属駒場高等学校	2年
塚田 晃 (つかだ ひろむ)	甲陽学院高等学校	2年
寺岡 晃一 (てらおか こういち)	北九州工業高等専門学校	2年
中條 淳博 (なかじょう あつひろ)	東大寺学園高等学校	2年
中村 智輝 (なかむら ともき)	大阪星光学院高等学校	2年
原田 耕佑 (はらだ こうすけ)	開成高等学校	2年
福田 朝 (ふくだ はじめ)	筑波大学附属駒場高等学校	2年
松本 弘樹 (まつもと ひろき)	東大寺学園高等学校	2年
安田 真由美 (やすだ まゆみ)	白陵高等学校	2年
吉田 裕治 (よしだ ゆうじ)	灘高等学校	1年

### 3 大賞受賞者の声

---

#### 全国高校化学グランプリから始まる1年の夢

宮城県仙台第二高等学校 3年 鈴木 裕太

ほんの1年前にこの全国高校化学グランプリに参加させていただいてから、本当に色々なことがあったなあと、感慨深く思い返しているところです。豪華な副賞を目当てに2ヵ年計画で参加を申し込んだこと、一次選考で落選の結果通知が届いたこと、身に覚えの無い化学オリンピック代表候補内定を知らせる怪しいメール。昨年のグランプリ表彰式・代表候補認定式では、諸先輩方の輝かしい成績に気後れしたのを覚えています。

それから参考書を頂いて、気の向くままに化学を勉強させて頂きました。当時の自分は数学にすっかり入れ込んでいたし、化学部にも所属していなかったので、化学をあまりよく知っているわけではありませんでした。それで、このときに高校程度を超えてもっと踏み込んだ化学を勉強して、化学の基礎的な部分を知ったことで改めて化学に興味をもつことになりました。特に面白いと思ったのは有機の反応機構や化学熱力学で、これらはちょうど昨年のグランプリ一次でもテーマになっていました。試験場ではほとんど解けなかったのですが、一通り学習してから振り返ってみると、グランプリの問題が高いレベルの（オリンピックに向けては必須の）化学への親切な入り口になっていることにも気付きました。

3月に代表として選抜され、実験の訓練も含めて化学にどっぷり浸かるようになりました。実をいえば、いまだに液体の入った容器を持つと、無意識に攪拌しようとしていることがあります。

7月のハンガリー大会から帰国し、ゆっくりと甲子園をテレビ観戦して一段落ついたころに迎えたのが、初めてのグランプリの二次選考でした。オリンピックでの実験試験の経験もあり、なんとか二次選考を無難に終えることができましたが、正直なところ、それほど自信はありませんでした。

ところが結果として、私は大賞を頂くことができました。つい1年前には二次選考に進むことができませんでしたが、この1年間で、多くのことを経験させていただき、その集大成として結果が出せたことは、本当に嬉しい限りです。

さて、かつて私がグランプリの実施報告書を頂いた際、グランプリで大賞を受賞した先輩の文章を読んだ時には、自分が代表に選ばれるだとか、まして同じような立場で文章を書くことになるとは夢にも思いませんでした。今、これを読んでくださっている方で、次回以降のグランプリに参加するチャンスのある方も、「まさか自分が」と多くの方が思っているでしょう。でも、思うに、この全国高校化学グランプリから得られるかもしれない貴重な経験は、そうして遠ざけてしまうにはあまりにもったいないものではないでしょうか。今、こうしてグランプリを知ったこと自体が、非常に喜ばしい幸運に違いありません。

最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださった全ての関係者の皆様にお礼を申し上げて、筆を置かせていただきます。

---

---

## Windows98 から Vista へ

筑波大学附属高等学校 3 年 足立 精宏

パソコンが新しくなった。正直戸惑った。たった 10 年間でパソコンの性能というものはこんなにも変わってしまうものなのかな。今までの貴い物のパソコンはメモリが 128MB しかなく、フリーズしてばかりだった。いろいろな物質を Wikipedia で調べようとしても、表示されるまでに何分もかかった。YouTube でアルカリ金属と水の反応の動画を見ようとしても、うまく再生できなかつた。ところが、副賞として頂いた新しいパソコンでなら、それがたやすくできてしまう。今やインターネットを通じてあらゆる情報がパソコンの操作一つで容易にできる時代となつた。

しかし、このように一見万能のように思えるパソコンにもできないことがある。五感すべてを通して感じられる実験のあの感覚、あの面白さ、あの感動は、決してパソコンの画面の向こう側の者には伝わらないだろう。アンモニアや酪酸の鼻を突く強烈な臭い、塩酸や硫酸の辛味と塩味の入り混じったような刺激的な味、ナトリウムやカリウムを切った時のあの何とも言えない軟らかさは、実際に経験した者にしかわからないだろう。これらの魅力がさらに僕を化学へと惹きつけるのである。その魅力を感じつつ、あらゆる失敗や苦難を乗り越えて実験が成功した時は、喜びも一入である。

今回の化学グランプリの二次試験の対策として、夏休み中に学校でいくつかの実験をさせていただいた。例えば、ナトリウムイオンからビスマス(III)イオンやアンチモン(III)イオンに至るまで 23 種類の陽イオンの定性分析をしたが、そのさまざまな沈殿の色は今も忘れられない。Fajans 法による塩化物イオンの定量分析のときのフルオレセインの美しい黄緑色の蛍光は今でも僕の心の中に強く残っている。携帯電話の中に収めたこの時の写真を見ると、その感動が苦労とともに鮮やかに蘇ってくる。実験中心の日々の授業を通して僕たちにこのようなたくさんの感動の機会を与えてくださり、その上、夏休み中にまでも指導してくださった本校化学科の古寺先生、そして化学グランプリという、化学に正面から向き合える素晴らしい機会を設けてくださったすべての関係者の方々に、この場を借りて深く御礼申し上げたい。

さて、先日、本校でとある実験講座（講師：内山聖一先生）が開かれた。高分子化合物を利用した蛍光性温度センサーの合成だった。1 時間ほどかけて、目的のセンサーが得られた。その溶液を温めてブラックライトの怪しげな光にかざすとそれは黄緑色の蛍光を発した。するといつものように化学の魅力が襲ってきた。そのほんのり明るい光に僕は心を奪われた。また少し、化学が好きになった。

---

---

## 高校化学グランプリに参加して

神奈川県立多摩高等学校 3年 来見田 遥一

今回の大会ではこのような賞が取れて本当にうれしく思います。大会には高校1年生のときから出ていますが賞を取れたこと自体が初めてだったのでとても驚きました。

大会では二次試験の合宿がとてもよい経験になりました。実験は化学を学ぶ上で重要なことですがあまりやる機会がありませんでした。高校の先生に協力していただいて少し練習することはでき、また今回の内容が滴定で2回ほどしたことがあったためうまくいったと思います。そして試験以外にも全国の高校生と交流することができそれもいい経験になりました。一次試験の筆記は受験化学と違い十分な時間の中、化学的な思考力を試される問題で興味の持てる分野もあり、テストですが受験勉強と違い楽しくといでいくことができるようないい問題だったと思います。

化学を勉強していく中で一番感じたことは、化学だけを勉強すればいいのではなく周りの分野の重要性です。物理・生物・地学・数学などを学ぶことにより相互に理解を深めることができました。さまざまな方向から自然科学というものを考えることにより自然というものはどのように成っているのか自分なりの理解が持てると思っています。ですが、最近の傾向として高校のカリキュラムが受験に偏った編成に変わりつつあり、いわゆる大学受験勉強のための高校の時間割になっていきそうのがとても残念に思います。自分は生物部・地学部（部員募集中です！！）ということでそちらの面からも化学に触れることができました。特に自分は生化学・分子生物学に興味があり、化学・生物両方を勉強することで、よりよい理解を深めることができました。表彰式の講演などを聞いていく中で、科学の分野の内容をわかりやすく人に伝えることも重要だと感じました。そのためには自分の苦手な文章力・表現力、細かく言えば声や表情などの訓練も必要になってくると思いました。大学ではそのようなことも学びたいです。

最後に、協力していただいた理科等の先生方、いろいろ影響を与えてくれた部活の先輩方、同級生、後輩にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

---

---

## 全国高校化学グランプリに参加して

海城高等学校 3 年 馬場 皆人

化学グランプリのホームページを偶然にも参加申し込みの締め切り日に見つけて、高校生活の最後の記念にという軽い気持ちで申し込んだような私が、結果として大賞を頂き、非常に驚いています。

一次選考の問題は、解していく過程で新しい知識を得られて、また、題材も興味深いものが多く楽しめるものでした。化学とは無縁だった私にとって、一次選考通過は予想外のことでのことで、化学実験なんて学校で数回しかやったことはなく、不安に思っていましたが、実験に関しては丁寧な説明があり、杞憂でした。二次選考では、周りが着々と実験を始める中で、私は実験の見通しを立てるのに 40 分も費やしたり、予想通りの結果が出ずには悩んだりと、あまり経験したことのない、思考力を使う課題に悪戦苦闘しましたが、得られる達成感は大きく、240 分はあっという間でした。

この大会が合宿形式であるおかげで、多くの友達を得ることができ、化学に関する話題に限らず、夜遅くまで話し込んでいました。翌日の東大の研究室見学では、最先端の化学研究の話を聞くこともでき、非常に充実した 2 日間でした。将来は研究職に就きたいと考えている私にとってこの大会への参加はいい刺激になりました。

最後に、素晴らしい機会を与えてくださった大会関係者の方々、忙しい中で実験練習を手伝ってくださった先生方、受験生であるにもかかわらず実験練習に付き合ってくれた T 君、ありがとうございました。そして、化学グランプリを知った方は、ぜひ挑戦してみてください！きっと化学の面白さを感じられるはず。

---

---

## 二度の化学グランプリに参加して

駒場東邦高等学校 2年 小澤 直也

2000人以上の化学好きの人が参加した化学グランプリ、その最高峰である大賞をいただけたことを光栄に思います。化学グランプリに参加したのは今年が2度目。昨年は銀賞でした。1年間化学オリンピックへ向けて勉強してきた成果を実感できたことがなにより嬉しいです。

化学グランプリに出会ったのは、一昨年中学3年の夏。所属していた化学部の顧問の先生に「一次選考の問題を解いてみないか?」と声をかけていただいたのがきっかけでした。

有機化学の知識が皆無だった僕に、貸してくださったのが高校教科書化学I。読んだものの、有機化学には興味を全く持てず、近寄り難い分野になってしまいました。そして、化学グランプリの問題と格闘。知識量を問う問題ではなく、化学の最低限の知識しかなくても、問題文の誘導に従って考え抜くだけで解けるという楽しさを味わうことができました。本参加できる高校1年の夏を心待ちにしました。

高校1年で挑戦した昨年の化学グランプリ。一次選考は大問4題に試験時間の5分の1ずつをかけ、残り5分の1の時間でできなかつた部分に戻るという時間配分で臨みました。好奇心をくすぐる問題ばかりで、問題文にマーキングしながら注意深く論理を追っていました。しかし、有機化学の問題では、途中で論理が反転しているように思えて、迷路で迷ったような状態に陥ってしまいました。その結果、有機化学の得点は二次選考参加者中最低点でした。また、二次選考直前は、有機化学の実験だったら何もできずに終わってしまうかも知れないと憂鬱でした。運よく問題には恵まれましたが、翌日の解説を伺って、初步的ミスに気づきました。

それでも、オリンピック代表候補として化学を勉強する機会をいただきました。化学会からいただいた参考書の1冊「マクマリー有機化学概説」は、それまでの有機化学に対する認識を180度転換してくれました。

そして今年、化学オリンピック参加を経て、化学グランプリに再挑戦。経験と知識が増えたため、一次選考の問題の誘導部分は軽快に読み進めていくことができました。二次選考でも自信を持って実験に臨めました。昨年同様一泊の合宿形式でしたが、今年の方が同学年の参加者が多かったので、打ち解けて交流できました。

### これから参加する皆さんへ

化学グランプリでは、化学の面白さに出会え、二次選考に進めば、地域や学年を超えて化学好きな人たちと交流もできます。見聞を広めるよい機会です。是非化学グランプリを楽しんでください。

最後になりましたが、化学グランプリ関係者の皆様、このような貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

---

## 化学グランプリを経て得たもの

開成高等学校 3 年 矢部 頤大

この化学グランプリで得た最大のものと言えば、ノートパソコンと反射的に答えたくなるのをぐっとこらえて「将来のコネ」と答えるでしょう。

去年の化学オリンピック選抜（僕は落ちましたが）、そして今年の二次選考の合宿、いろいろな仲間と出会いました。そしてそのそれぞれがとても印象的で、よく言えば個性的、悪く言えば「へんな奴」ばっかりでした。しかしやはり化学好きという共通部分があるせいか、気の合う仲間が多くたのも事実です（類は友を呼ぶという言葉もありますが）。それぞれの合宿で、夜の自由時間にカードゲームをし、ふざけあい、馬鹿騒ぎをして、将来の目標や化学について語り合ったのは良い思い出です。もし僕が研究者になれたのなら、どこかでその仲間たちの名前を見かけ、またこのグランプリ中に交換したメールアドレスが役立つときがきっと来るのだろうと、漠然とした確信を持っていました。

現代の学問は大部分がそうですが、殊に化学において多くの知り合いがいることはとても重要な意味を持つと思います。なぜなら現代の化学の膨大な知識をすべての分野において身につけることは不可能に近く、やはり異なる得意分野を持つ人々の協力が欠かせないからです。この化学グランプリに集まった人たちは、やはり化学が大好きであるという点で、化学において一番大切な素質を持っているでしょう。将来、何人かは著名な化学者になっているかもしれません。

確かに大学に行き、研究室に入れば同じ目標をもつ人々と知り合うでしょうが、そこには互いの利害が多少なりともかかわってしまいます。高校生と言う早い段階で同じような夢を持つ仲間と会えると言うのは、とても大きな価値があるように思えます。この化学グランプリには、化学の輪が広がる可能性の種をまいてくれたと言う点においても大きな価値があると思います。将来その芽が出るかは今現在ではわかりませんが、そうなったならとてもすばらしいことでしょう。

この文章を読んでいる高校生の皆さん、ぜひ化学グランプリをうけてみてください。高校の範囲では語れない内容が、丁寧な誘導によって出題されます。確かに難しいですが、考えれば解けるようなヒントがあり、また出題問題には大学の先生方のメッセージがこめられているように思います。そのような問題に触れるだけでも価値はありますし、二次選考やオリンピック候補に選ばれたらそれはそれで儲けものです。そして何より、解けたときにはとても楽しいです。

最後にこの機会を与えてくださった化学グランプリ主催者のみなさんに感謝を述べたいと思います。友達になったみんな、またどこかで再会しましょう！

---

---

## 化学グランプリに参加して

大阪府立大手前高等学校 3年 井手野 泰久

結果発表で大賞に選ばれたと知ったとき、筆記と実験の試験で正直なところそれほどできたとは思ってなかつたので、嬉しさよりも驚きを感じました。その驚きが嬉しさに変わったのはその1カ月後表彰式に参加してノートパソコンを手にした瞬間でした。

参加を決めたきっかけはもちろん化学が好きだからです。参加を決めた後はホームページを見て過去問をいくつか解いてみましたが、どの問題も学校の問題集に載っているようなものではなく化学の深いところを探っているように思いました。それらの問題をきっかけにして書籍などで出てきた単語を調べるうちに、高校の範囲を飛び出して知識を得ることが楽しくなってきました。そうして迎えた一次選考は熱重量分析法やノット分子などの興味深い話題を扱った問題でした。設問のレベルとしては昨年ほど難しくなかつたようで、8割が二次試験に進めるボーダーラインだろうなどと試験後に周りの人が話しているのを聞いて、「白衣はもらえないけど電卓だけでももらえたからいいや」と二次選考のことはあきらめっていました。それだけに後日届いた知らせは思いがけなく、大変うれしく思いました。

はじめて東京にやってきての二次選考。試験前に手渡された実験にあたっての注意事項を昼食を食べながら読むと（会場の近くのそば屋に行ったのですが、そばのだしの色が本当に違っていたことに少しショックを受けました）、過マンガン酸イオンが出てきたので COD の測定だろうなと予想していました。しかし、実際は違ってマンガン乾電池の仕組みを探るというテーマでした。身近にあるものなのにその原理は全く知らなかつたのでそれを知ることができたという点でも二次選考に進めてよかったです。

ノーベル物理学賞を受賞された朝永振一郎さんは「ふしぎだと思うこと これが科学の芽です よく観察してたしかめそして考えること これが科学の茎です そして最後になぞがとける これが科学の花です」とおっしゃっています。いま最も興味があるのは創薬化学でこれを将来は勉強しようと思っていますが、この言葉をずっと大切にしていきたいと思います。

今回の受賞の中で最もよかつたと思うことは、「科学の種」——科学が好きなこと——を自分がもっていることを改めて感じじことができたことでした。

最後になりましたが、化学グランプリの関係者の皆様、二次選考の練習のためにお盆という時期にも関わらず実験を組んでくださった高校の F 先生、誘ってくれた H 君、応援してくれた方々には心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 5 アンケート集計結果

### 5-1 一次選考参加者へのアンケートと回答結果

開催:平成 20 年 7 月 21 日 参加者数:2,105 名

アンケート回答者数 2,105 名(1 年生 274 名、2 年生 861 名、3 年生 922 名、学年不明 48 名)

(1) 全国高校化学グランプリを、何で知りましたか。

	1 年	2 年	3 年	不明	計
1. 先生	184	693	747	38	1,662
2. ちらし	20	63	80	7	170
3. 友人・知人	29	58	41	3	131
4. 新聞・雑誌	5	2	0	0	7
5. インターネット	8	17	28	0	53
6. その他・無回答	28	28	26	0	74
合計	274	861	922	48	2,105

<備考>

4. 新聞・雑誌(具体名)

静岡新聞、下野新聞、神戸新聞

6. その他

部活動、実験教室、家族、大学のオープンキャンパス、等

(2) 参加しようと思った動機は? (3 つ以内選択)

	1 年	2 年	3 年	不明	計
1. 面白そうだったから	85	295	332	14	726
2. 化学が好きだから	86	243	345	12	686
3. 化学が得意だから	4	41	68	2	115
4. 昨年も参加したから	1	88	142	9	240
5. 先生や友人に勧められたから	131	403	380	21	935
6. 全国大会に出たいから	2	16	32	0	50
7. 自分の力を試したいから	50	142	192	8	392
8. 国際化学オリンピックに出たいから	17	28	9	1	55
9. 勉強になると思うから	80	195	239	12	526
10. パソコンがほしいから	15	26	52	1	94
11. その他・無回答	31	102	53	5	191
合計	274	861	922	48	4,010

<備考>

11. その他

部活動の一環だから、学校で強制的に、夏休みの課題だから、入試に有利だから、参加賞がほしいから、どんな問題が出るか見てみたかったから、化学好きなひとと友達になりたかったから、等

(3) 一次選考は全体としていかがでしたか?

	1 年	2 年	3 年	不明	計
1. 易しかった	3	9	26	0	38
2. 予想通り	10	61	142	5	218
3. 難しかった	97	395	466	19	977
4. 非常に難しい	160	389	264	24	837
無回答	4	7	24	0	35
合計	274	861	922	48	2,105

(4) 各問題は難しかつたですか？

問 1	1年	2年	3年	不明	合計
1. 易しい	23	80	145	3	251
2. 普通	85	316	383	22	806
3. 難しい	85	301	278	14	678
4. 非常に難しい	80	162	114	9	365
無回答	1	2	2	0	5
合計	274	861	922	48	2,105

問 2	1年	2年	3年	不明	合計
1. 易しい	5	21	53	1	80
2. 普通	43	185	257	13	498
3. 難しい	108	381	400	20	909
4. 非常に難しい	117	269	210	13	609
無回答	1	5	2	1	9
合計	274	861	922	48	2,105

問 3	1年	2年	3年	不明	合計
1. 易しい	2	7	16	0	25
2. 普通	8	54	100	6	168
3. 難しい	76	270	416	21	783
4. 非常に難しい	187	524	388	19	1118
無回答	1	6	2	2	11
合計	274	861	922	48	2,105

問 4	1年	2年	3年	不明	合計
1. 易しい	3	8	29	0	40
2. 普通	5	55	111	5	181
3. 難しい	58	252	343	19	672
4. 非常に難しい	200	540	435	21	1196
無回答	3	6	4	3	16
合計	274	861	922	48	2,105

(5) 各問題で取り扱っている化学的内容はいかがでしたか？

問 1	1年	2年	3年	不明	合計
1. 興味が持てる	160	478	559	30	1227
2. 普通	75	274	281	13	643
3. つまらない	9	28	37	2	76
4. わからない	30	79	44	3	156
無回答	0	2	1	0	3
合計	274	861	922	48	2,105

問 2	1年	2年	3年	不明	合計
1. 興味が持てる	136	400	513	23	1072
2. 普通	81	287	305	18	691
3. つまらない	15	38	39	2	94
4. わからない	41	133	64	4	242
無回答	1	3	1	1	6
合計	274	861	922	48	2,105

問3	1年	2年	3年	不明	合計
1. 興味が持てる	98	289	401	22	810
2. 普通	81	285	326	15	707
3. つまらない	22	81	72	2	177
4. わからない	73	202	120	7	402
無回答	0	4	3	2	9
合計	274	861	922	48	2,105

問4	1年	2年	3年	不明	合計
1. 興味が持てる	88	292	377	19	776
2. 普通	90	278	339	15	722
3. つまらない	15	62	63	3	143
4. わからない	79	224	138	8	449
無回答	2	5	5	3	15
合計	274	861	922	48	2,105

(6) 来年も挑戦したいですか？

※1年生 274名、2年生 861名を対象

	1年	2年	合計
1. はい	171	394	565
2. いいえ	18	108	126
3. 何とも言えない	81	358	439
無回答	4	1	5
合計	274	861	1,135

(7) 「国際化学オリンピック」について知っていましたか？

	1年	2年	3年	不明	合計
1. グランプリを知るより前	45	116	140	10	311
2. グランプリを知るのと同時 またはその後	180	572	618	27	1397
3. 今日初めて知った	48	173	157	11	389
無回答	1	0	7	0	8
合計	274	861	922	48	2,105

(8) 感想・その他

(抜粋)

- ・ まだまだ勉強不足を感じた。しかし、知識よりも考える力が試されるという点で他のテストより面白かった。また、特に有機化学の設問において難しいがトポロジーなどについて触れているところについて興味が持てた。
- ・ センターを化学では受けませんが化学を始めから復習して勉強したいなあと思いました。あとは来年までに化学又は化学以外のものもわかるようになっていたらまたどんどん出てみたいと思いました。
- ・ あまりできなかつた私が言うのもなんですが最高に知的興奮を味わえるすばらしいものでした。自分の脳内で論理を展開していくのは改めて面白いと思いました。ありがとうございました。
- ・ 解説が面白いと思った。また、とても考える問題があり、そのような問題は私は好きなので化学グランプリを受けてよかったですと思う。1つの問題に集中しすぎて後の問題に答えられなかつた。
- ・ 高2で、まだ基礎化学しか学んでなかつたので、初めて見る問題が多くつたが、説明をよく

読めば解ける問題もあったので、分からぬ部分でも解くことができるところがあり、よかったです。

- ・ 小学生の頃から理科が好きで、中学を経て高校に入り、そこの科学部にずっと所属しています。そこでは1億倍の実体積分子模型（発泡スチロール球製）を作ることが活動内容の中心となっていて、自分も1年からメタンかベンゼンからDNAに至るまで様々な分野で活躍したり問題となっている分子を色々と作り続けてきました。その過程で分子構造やその他の情報を調べるために化学が大好きになっていきました。分子・イオンだけが化学ではありませんが、明らかに分子たちが自分の進路を決定づけてくれました。これからも分子と関わる勉強ができたら幸せだと思っています。今回の一次選考でも魅力的な話題がたくさん出てきました。今回一次選考を勝ち抜いた方は二次選考に進み、さらにそれから化学オリンピック代表が出るわけですが、自分のようにそんなことは気にせず、化学の新たな面白さと出会うためにグランプリに参加するのもよいかと思います。確かに問題は難しいですが、化学好きなみなやってほしいグランプリですね。
- ・ 理解力を直接問うつくりになっていて、良問ぞろいだったと思います。ただ、2の問12のii)、iii)の立体構造は画力のない僕には少し書きにくかったです。問題文、図、グラフ、全てとともに理解しやすく、丁寧なつくりになっていたと思います。ありがとうございました。
- ・ まだ学校で習っていないことも沢山で大変でした。だも、これが高1や高2でも二次に行ける人がいるのですから世の中恐ろしいですよね。実は私は「化学が大好き」というわけではありません。友達に誘われたので「ああ行こうかなー」という程度です。得意か苦手かと聞かれたら自信を持って「苦手」と答えます。ただ、化学の実験はとても興味深いところがあるので毎回ワクワクしています。レポートとか書くのが大好きなんです。今回この化学グランプリを参加するにあたり、過去問題集を見ましたが、とても難しくて絶望していました。昨日は疲れなく、4時にやっと寝ることができました。そのせいか、テストが始まるとたんに睡魔におそれ、ヤバイと感じました。やはりこういう日の前は早く寝なければダメですね。二次に進む人達にはぜひ頑張って頂きたいです。次の時はもう高校3年生ですが、今回のリベンジができたらしいなと思っています。ありがとうございました。
- ・ 今回はじめて化学グランプリに挑戦させていただきましたが、非常に面白かったです。演習としてやってきたグランプリの過去問や、今回の問題は、どれも非常に頭の使う難しい問題で、解答することの出来た問題がほとんどないような状況になっていたりもしますが、楽しんで取り組むことができました。学校でのテストのような問題とはまったく違う。学力だけでない問題に頭をひねらせながらも、化学史における研究などの興味深い問題に取り組むことは、150分という長い時間をそう感じさせない問題でした。今年は2年生なので、もう一度チャンスがあります。ぜひもう一度受けたいと思いました。
- ・ 昨年も参加したのですが、その時はほとんど答えられず、おもしろそうな問題ばかりだったのに残念でした。それで今回リベンジという事で参加しました。昨年に比べて解くスピードも向上しており、昨年は半分ほどしかうめられなかつたものを今回ほとんど埋めることができとても満足しています。ぜひ来年もといいたいところですが、来年はないので一次予選が通過してくれるとうれしいです。
- ・ とても難しく、途中で集中力が切れることもありました。しかし、授業では扱わない内容が多く、楽しむことができました。おそらく二次はでることはないといますが、良い経験でした。ありがとうございました。
- ・ 今年は1年生だったから、いい経験のつもりで受けてみて、やっぱり難しくて全然解けなかつたけど、久々に考える楽しさを教えてくれて、来年出でたときは、解く喜びを、この難しい化学グランプリの問題で味わいたいと思わせるような試験でした。
- ・ とても難しかったですが、とても面白かったです。私は化学が好きなのでこれからもっと勉

強して、来年もまた参加したいと思います。問題を見ると、やはり、自分の知識の少なさに少し悲しくなりましたが、この悲しさをばねに、来年の化学グランプリ、最終的には大学合格を目指して頑張ろうと思います。ありがとうございました。

- ・ 暗記や典型だけでは解けない問題と聞きました。問題を解くために工夫もしましたが、何より基礎も大事なんだなあ、と痛感としました。とても興味深い内容でした。こちらこそありがとうございました。
- ・ まだ習っていないところが沢山出ると思っていたが、分からぬ問題も一つ一つ丁寧に説明されていて解きやすかった。問題のレベルとしては難しいと感じたが、興味のもてる実験などもあり、楽しく問題と接することができた。そして、化学の面白さ、深さを改めて実感した。できれば来年も受けたいと思う。
- ・ 時間が全く足りません。のんびり解答しすぎました。国語の力が必要だということを痛感しました。それに加えて化学の知識もやっぱり必要なんだと分かりました。来年はもっともっと化学を勉強してチャレンジしたいです。来年こそは全問解答したいです。(そのためにはしっかりと昼ご飯を食べないと...) 化学グランプリの問題はとても面白いので、問題集として一般に販売してほしいです。
- ・ 昨年の問題よりだいぶ簡単になった気がしますが、どのテーマも興味深く、楽しく問題を解くことができました。特に最後の血糖値を電流で測定する方法は祖父が糖尿病だったこともあり、親近感がわきました。こうした生活と結びついた分野からの出題を続けていってほしいと思います。
- ・ 見たことのない問題ばかりで、難しかったですが、問題を読んで初めて知った知識が多くあり、勉強になりました。また、この問題を解ける同年代の人がいると思うともっと勉強しなければいけないと思い、刺激を受けました。これからたくさん勉強をして、知識を増やしていきたいです。
- ・ 何一つとして自信を持って答えられる問題はありませんでした。しかし、現代に繋かる化学の流れが少し見えたような気がします。伝説と否定の繰り返しの中で人間は化学に何を見たのか、見ようとしたのか。今日の試験の自分の点数はとても低いと思います。しかし、これからも化学を頑張ろうと思うことができました。

## 5-2 二次選考参加者へのアンケートと回答結果

開催：平成 20 年 8 月 23 日～24 日

参加者数 80 名 アンケート回答者数 76 名

### 1. 二次選考(実験試験)について

#### (1) 今回の二次選考（実験試験）の難易度や内容はどうでしたか？

- ・ 難しかった。(14名)
- ・ 難しかった。まさか去年と同じ分野だとは思わなかった。
- ・ 昨年と比べると非常に難しくなっていました。
- ・ 難しかった。化学反応式が分からず沈没。
- ・ 難易度高すぎです。
- ・ 非常に難しかった。高度な考察とある程度の反応の予測能力を問われた。
- ・ 難しかった。自分が何をやっているのかよく分からなくなったり。
- ・ 難しすぎる。手も足も出なかった。
- ・ 難しかった。時間が足りなかった。
- ・ とても難しかった。失敗してもやり直せる回数が限られていたり、失敗できない操作もあり、神経を使った。
- ・ 難しかった。内容が身近だったので逆に困ってしまった。
- ・ 難しかった。なにより時間が足りなかった。身近なものが題材となっているのは興味深かった。
- ・ 難しい。個人的には有機がいい。
- ・ 難しかった。Zn<sup>2+</sup>の同定は Al<sup>3+</sup>と間違えやすいと思う。
- ・ 実験をするのは初めてだったので難しく感じた。
- ・ 慣れない操作が多くて難しかったです。
- ・ 慣れていなかったので辛かった。
- ・ 難しく感じた。が、解説を見ると必要な知識は教科書に載っている基本的なものであり、良問だと思った。
- ・ 難しかった。でも、内容は興味をもてる面白いものだった。(2名)
- ・ もう全然予習が必要な問題ばかりでなえなえでした。
- ・ 難しかった。実験器具の説明があったのは助かりました。ただ実験 1 で共同実験台の存在に気がつきませんでした…自分だけ？ 今回の問題はかなりの前提知識力が要るようを感じました。思考力を問う問題といつても考えようがありませんでした…。
- ・ 実験も手順が複雑で難しく、考察に十分な時間がまわせなかった。内容も個人的に苦手な分野だったので難しく感じられた。
- ・ 難易度としては易しくはなかったが、今までの全く知らない分野からの出題ではなく知識があるかないかの差が大きく出てしまう問題だったと思う。
- ・ 難しいという事もあり、又、時間が足りないという事もありました。内容は、過マンガン酸塩滴定は何度かした事があったけれど、計算でミスをしたのが非常に悔しいです。
- ・ 普段実験をほとんどしないため、用具の使い方等解らない事も多々あり、何とか実験をすることはできたけど、紙の上で問題をとくのとは別種の難しさがありました。また、酸化・還元滴定に電池関連とよくみたテーマであるにも関わらず、いかに自分でやるのが難しいのかを思いしりました。
- ・ 実験をほとんどやったことのない身としては、いきなり一発勝負なのがきびしかった。実

験方法もできるだけ自分で考える形式にしたほうがおもしろいと思う。

- ・自分がどれだけ寡聞か思い知りました。
- ・僕にはまだ早かったです。
- ・実験自体ができないものではなかったが、やはり難しかった。
- ・客観的にはやや難しかった。しかし、実感としてはかなり難しかった。内容は高校生に対するものとしてとても良いと思います。
- ・難しかったが、操作自体はできなくてはならない内容だと思う。
- ・難易度は高かったが、ちょうどよかったです。内容は高校化学の発展的なものでよかったです。
- ・難易度はちょうどいいと思った。しかし、内容としてはマンガン電池のことを知っている人はすらすら解けてしまいそうだったので、もう少しひねりがあるといいと思った。
- ・適度な難しさだったと思う。「活物質が残っていることを調べる」方法の答えが「テスターを使う」というのは少し化学らしくない気がした。
- ・やや難しかったが楽しめた。
- ・僕は化学が苦手であるのでなかなか難しかったが、ある程度知識のある人々にはそんなに難易度が高いというものでもないと思う。問題文がどうにも短かった。もう少し考えるための材料が問題文中にあると嬉しい。総じて今年の問題はあまり「面白いなー」という印象はなかった。
- ・難易度はちょうどいいと思った。内容も良かったが測定の腕前以外は反応式が合っているかどうかで決定してしまうのが残念だった。最後の方の電気に関する問題は物理学習者には有利だったと思う。生物学習者は解けなかつたかもしれない。
- ・難易度自体はちょうどいいが、緊張してミスった。問題は面白かった。
- ・難易度はこのくらいでよいと思う。電気化学は高校の内容を元に発展して考えられるのでよかったです。
- ・実験自体の難易度は調度良い。問い合わせ物理寄りのものもあって難しかった。
- ・丁度よかったです。(2名)
- ・良かったと思う。
- ・妥当なところだと思う。
- ・まあまあ。
- ・そこそこ。
- ・あまり思い出したくないですが、まああんなもんではないのでしょうか。よくわかりませんね。
- ・普通。
- ・内容は良かったと思うが、レポートの時間が足りなかった。
- ・はじめ見たときは行けそう。 $\rightarrow$ 机の上で解くのと実験は違う。楽しかったです。
- ・問1に戸惑ってしまった。Xの中のイオンを探すのかと思って、問題に書かれてあるイオン以外のものを調べようとしていたので、そこがうまくなかった。実験はそれなりにできたのだが、そこから発展的な考えを出すのが多少つらかった。酸化還元についてはよく分からぬ分野だったので実験できてよかったです。
- ・最初の説明が全く聞こえず、どこになにがあるかを理解するのに時間がかかり、時間が足りなくなつた。
- ・僕の学校の化学の授業は半分以上が実験だし、夏休み中にも化学の先生に頼んでキレート滴定、モール法、ファイアンス法、化学グランプリや国際化学オリンピックの過去問、準

備問題もいくつかやっておいたので自信があったが、実際は全然できなかつたくらい難しかった。特に  $\text{Cl}^-$  の定量でモール法、ファイヤンス法を書けばよかったと後悔している。

- ・  $\text{MnO(OH)}$  の挙動について情報が欲しかった。
- ・ 内容は身近なものでおもしろかったです。難易度はあまりに自分のレベルが低かったので判断できません。
- ・ 未知の体験でした。
- ・ 酸化還元滴定はとてもポピュラーな実験で、割と経験済みだった人が多かつたのではないかでしょうか。結果、少々不公平だった感があります。実験方法のやることがほとんど決まっているので、どんな操作をするかで悩む機会が少なかったように思います。
- ・ 単純だけど様々な考察が可能な実験でなかなか面白かったです。
- ・ 初めてした実験でとても楽しかったです。でも生物・化学選択の受験生なので物理学的な知識を問われて大変でした。
- ・ 頭を使う問い合わせだったと思う。
- ・ 最初のイオンの同定で失敗してしまったため、最後までたどりづけず大変でした。
- ・ 推測と実測があわざあせつた。実験は試験中に慣れていった。

(2) 今後、実験試験にはどんなテーマがふさわしいと思いますか？

- ・ 有機化学 (10名)。
- ・ 有機合成 (3名)。
- ・ 有機化合物の構造決定 (3名)・構造推定 (1名)。
- ・ 有機化合物の定性分析 (3名)。
- ・ 有機物質の分離
- ・ クロマトログラフィー (薄層など) (3名)
- ・ 抽出
- ・ プラスチック
- ・ 合成 (2名)
- ・ 無機分析、等
- ・ できれば無機を中心としたもの。
- ・ 定性実験
- ・ 定性と滴定は定番化すればいいと思う。
- ・ その辺は化学のできる人が考えれば良い。滴定なんかはこういう試験にはふさわしい題材だと思う。
- ・ 定性分析 (あまり知識を前提としないもの)、定量分析 (滴定)  
一例として学校でやった純水と飽和食塩水を区別する実験は良いと思う。やり方は生徒が考え、必要なものを先生に頼んで実験した。(ex:  $\text{AgNO}_3\text{aq}$ 、白金線、 $\text{CuSO}_4\text{aq}$ 、 $\text{NaOH}\text{aq}$ ・・・)  
全般として実験の技能も評価に多めに加えるべきだと思う。
- ・ 誰もやったことのない定量実験はおもしろいかも知れない。
- ・ 生命化学はおもしろそう。
- ・ 錬金術
- ・ ベロウゾフ・ジャボチンスキ反応
- ・ 反応速度とか電気電導率とか。
- ・ 気体反応・速度式など
- ・ 光合成

- ・ とりあえず来年は電池以外がいいと思う。(3名)
- ・ 内容自体はもっと簡単で、代わりになんの誘導もないほうがやっていておもしろいと思う。
- ・ 今回のように身近なものながら意外と構造、仕組みがわからないといった内容がいいと思います。
- ・ はじめの間違い（実験誤差等）を後に引きずらない問題。その意味で今日の後半の問いは良かったと思う。
- ・ その時勢にあったもの
- ・ シンプルな実験に始まり、考察を交えながら化学の世界の最新の発見話題に即したホットな実験に誘導していくようなものがおもしろいと思う。
- ・ 最先端技術に関わる化学
- ・ 教科書の内容を意味不明なくらい深くしたもの。
- ・ 学校ではやらないような実験をしてほしい。
- ・ 高校生は知らないだろう分野だけど、高校生にも理解できる分野をテーマにしてほしい。
- ・ もっと考える時間のある試験にしてほしかった。（試験時間の延長。ただしこれ以上長くするとスケジュール的にタイトなので、2泊3日にすればいいと思う。）内容としては、今回の問1のようなどちらかというと「知識」を問う問題は避けるべきと思う。実験データをもとに考えさせる問題をもっと増やしてほしいと思う。
- ・ 考える能力をためすようなテーマ
- ・ 記憶力に頼らないもの。
- ・ 予備知識を必要としないもの。(3名)
- ・ 予備知識があまり要求されない感じのものがいいと思います。学者としての「センス」を問うのならなおさらです。
- ・ やっていてわくわくするテーマがいいと思います。

#### 合宿について

##### (3) 懇親会について

項目	件数
1.とてもよかったです	25
2.よかったです	39
3.普通	11
4.よくなかったです	1
5.全然よくなかったです	0
6.未回答	0

##### (その他自由意見)

- ・ ビンゴゲームは賞品が多く、空クジがなくてよかったです。盛り上がったので今後も続けてもらいたい。
- ・ 食事の量は適切だった。出しすぎで残飯をすることになるよりは少し足りないくらいのほうが余程良い。
- ・ 他校の人と知り合え、話せるのが楽しい。友達ができてよかったです。
- ・ 試合後なので気分が落ち着いた。

(4) 宿泊施設について（部屋・朝食含む）

項目	件数
1. とてもよかったです	28
2. よかったです	33
3. 普通	13
4. よくなかったです	2
5. 全然よくなかったです	0
6. 未回答	0

(その他自由意見)

- ・ 同室の人といろいろ話したり、とても楽しい時間を過ごせたのでよかったです。
- ・ 一人部屋はさびしい。
- ・ 一人部屋だったので気楽でよかったです。

(5) 宿泊日数について

項目	件数
1. ちょうどよい	42
2. 2泊3日がよい	28
3. 3泊4日がよい	3
4. 宿泊形式でない方がよい	3
5. 未回答	0

(その他自由意見)

- ・ 1泊2日だと親交が深まらない。移動の負担・疲れが大きい。
- ・ 3日は体力が続かないと思う。長すぎると辞退者ができるかもしれないと思う。
- ・ 実験が1テーマしかなかったのが物足りない。試験は2日にわたってじっくり考えながらやる方がいいと思う。
- ・

(6) 二次選考合宿開催地について

項目	件数
1. 東京近郊がいい	49
2. 大阪近郊がいい	10
3. それ以外がいい	13
4. 無回答	4

(具体的な地名 北海道/佐渡島/名古屋/京都/沖縄)

(その他自由意見)

- ・ 年度毎にいろいろと会場を変えてみる。(2名)
- ・ 参加者がいなかつた県
- ・ 見学しておもしろいところがあればどこでもいいです。

(7) 東京大学施設見学会について

項目	件数
1. とても興味深い	41
2. 興味深い	25
3. 普通	7

4. あまり興味を持てない	1
5. つまらない	1
6. 未回答	1

(その他自由意見)

- 初めて知る最先端の化学はとても興味深かった。
- 7つの研究室を2時間で回れて、大変効率よく密度の濃い見学だった。研究所見学の機会はあっても今日ほど中身が濃く飽きない見学は珍しい。とても良い経験となりました。
- 1回休憩が欲しかった。

(8) 合宿に参加していかがでしたか

項目	件数
1. 満足	54
2. まあまあ満足	20
3. 普通	1
4. やや不満	0
5. 不満	0
6. 未回答	1

(その他自由意見)

- ホテルの7人部屋は死ぬほどありがたかったです。楽しい思い出もできたり、なんと言ってもモチベーションがすごく上がりました。
- 本戦は散々でしたが、いい経験になり、東大の施設見学もとても面白いものでした。
- 来年も是非来たい。
- 全国からどれだけの人が来るだろうと思ってとても心細かったのですが、合宿中は皆わきあいあいと楽しむことができたり、これまでなかつた経験をたくさんしたり、分子模型や白衣がもらえたので本当に来てよかったです。

## 2. その他

- 学校では普段使わない実験器具を使えるのが良かった。(2名)
- せめて3日間くらい合宿で色々したかったです。
- 一人部屋だとなかなか周りとなじむのに苦労しました。
- やっぱり一人部屋はよくないです。どう考えても懇親会とかは部屋のメンバーで行くでしょうし、そこで一人になっちゃうと交流を持つのも厳しいなと感じました。(2名)
- 部屋はもっと大人数の方がいい。
- ご飯おいしかったです。
- 半強制的に1次を受けさせられ、気づいたら2次会場にいましたが、とても良い経験になりました。
- 東京までただでこれたのがよかったです。
- 試験で自分の無力さに気がつきました。
- 実験試薬で迷惑をおかけした先生方すみませんでした。でもとても楽しかったです。留年してもう1回受けようかな。

## 6 報道記事リスト(全国高校化学グランプリ)

No.	媒体名	媒体社名	掲載日	内容
1	朝日新聞・夕刊	朝日新聞社	4月24日	シンボルマーク募集
2	化学工業日報	化学工業日報社	5月19日	グランプリ参加者募集
3	伊勢新聞	伊勢新聞社	5月20日	〃
4	朝日新聞・岩手版	朝日新聞社	5月21日	〃
5	朝日新聞・愛媛版	朝日新聞社	5月22日	〃
6	朝日新聞・鳥取版	朝日新聞社	5月23日	〃
7	日経サイエンス	日経サイエンス (日本経済新聞社)	5月25日	〃
8	徳島新聞	徳島新聞社	5月30日	〃
9	日本教育新聞	日本教育新聞社	6月2日	〃
10	毎日新聞・岩手版	毎日新聞社	6月6日	〃
11	読売新聞・宮崎版	読売新聞社	6月6日	〃
12	下野新聞	下野新聞社	6月11日	〃
13	産経新聞・三重版	産経新聞社	6月12日	〃
14	毎日新聞・岩手版	毎日新聞社	6月13日	〃
15	福島民友	福島民友	6月13日	〃
16	上毛新聞	上毛新聞社	6月15日	〃
17	化学工業日報	化学工業日報社	8月26日	グランプリ結果
18	桐生タイムス	桐生タイムス社	9月2日	グランプリ 桐生高校から銅賞
19	読売新聞・山梨版	読売新聞社	9月4日	グランプリ 駿台甲府高校から銅賞
20	秋田魁新報	秋田魁新報社	9月4日	グランプリ 横手高校から金賞
21	神戸新聞	神戸新聞社	9月5日	グランプリ 白陵高校から金賞、銅賞
22	教育新聞	教育新聞社	9月11日	グランプリ結果
23	朝日新聞・三重版	朝日新聞社	9月12日	グランプリ 高田高校から金賞
24	上毛新聞	上毛新聞社	9月12日	グランプリ 桐生高校から銅賞
25	河北新報	河北新報社	9月13日	グランプリ 仙台第二高校から大賞
26	読売新聞・秋田版	読売新聞社	9月20日	グランプリ 横手高校から金賞
27	産経新聞・石川版	産経新聞社	9月25日	グランプリ 北陸結果
28	産経新聞・富山版	産経新聞社	9月25日	グランプリ 北陸結果

29	茨城新聞	茨城新聞社	9月30日	グランプリ 常総学院高校から金賞
30	化学工業日報	化学工業日報社	9月30日	グランプリ表彰式、シンボルマーク紹介
31	秋田魁新報	秋田魁新報社	10月1日	グランプリ 横手高校から金賞
32	中国新聞	中国新聞社	10月3日	グランプリ 広島学院高校から金賞と銅賞
33	科学新聞	科学新聞社	10月10日	シンボルマーク紹介

2008年4月1日から10月31日掲載分まで



## 付 錄

### 「全国高校化学グランプリ 2008」一次選考問題および解答例と解説の訂正等について

以下（ア）～（ウ）の訂正と（エ）の補足説明を試験当日に参加者に通知しました。なお本報告書とホームページ（<http://gp.csj.jp/2008.html>）に掲載の問題および解答例と解説は、訂正後のものです。

（ア） 問題冊子 3 ページ：本文下の右半分が「図 2」

（イ） 問題冊子 5 ページ：誤 「問 10」 → 正 「問 9」

（ウ） 解答例と解説 18 ページ：問 8 「エ 酸素 オ 60」は「エ 60 オ 酸素」の誤りです。

（エ） 問題冊子 3 ページ：図 1 は不鮮明ですが、解答に支障はありません。

以上

## 付録C 平成19年度収支予算・実績

自：平成19年4月1日 至：平成20年3月31日

区分	費目	予算額	実績額	差額
支出	印刷費	3,690	3,473	217
	会場借料	2,820	1,116	1,704
	事務委託費	5,895	5,304	591
	通信運搬費	1,930	2,144	△ 214
	登録料	630	612	18
	保険料	25	21	4
	旅費交通費	5,750	4,588	1,162
	臨時雇用費	380	280	100
	謝金	5,355	5,450	△ 95
	消耗品	3,335	2,991	344
	人件費、事務管理費	9,650	10,916	△ 1,266
	賞状・副賞・賞牌費	1,630	1,718	△ 88
	懇親会費	610	732	△ 122
	会議費	735	2,496	△ 1,761
収入	合計	42,435	41,841	594
	(独)科学技術振興機構(国際科学技術コンテスト支援金)	25,000	25,000	0
	「夢・化学-21」委員会	7,785	5,925	1,860
	社団法人日本化学会	9,650	10,916	△ 1,266
	合計	42,435	41,841	594

(単位：千円)

## 付録 D 委員会・講演等実施記録

### 委員会

化学グランプリ・オリンピック委員会

第1回 平成20年3月7日(金)

化学会館

運営幹事会

第1回 平成20年1月25日(金)

化学会館

第2回 平成20年6月13日(金)

化学会館

第3回 平成20年9月26日(金)

化学会館

作題WG

一次選考問題作成

第1回 平成20年1月28日(月)

化学会館

第2回 平成20年3月14日(金)

化学会館

第3回 平成20年4月11日(金)

化学会館

第4回 平成20年5月16日(金)

化学会館

第5回 平成20年6月6日(金)

化学会館

二次選考問題作成

第1回 平成20年7月19日(土)

東京工業大学

第2回 平成20年8月7日(木)

東京工業大学

第3回 平成20年8月16日(土)

東京工業大学

オリンピックWG

主にメール会議で実施

普及広報WG

主にメール会議で実施

### 過去問説明会

東海支部

平成20年6月21日(土)

名古屋工業大学

参加者 高校生および高校教員 30名程度

中国四国支部

平成20年6月28日(土)

徳島県立総合教育センター

参加者 高校生および高校教員 30名程度

### 各支部表彰

北海道、東北、関東、東海、中国・四国、九州の6支部で実施

## 付録E 関係者一覧

### 平成20年度日本化学会化学教育協議会 化学グランプリ・オリンピック委員会

委員長	薬袋 佳孝（武藏大学人文学部基礎教育センター）
副委員長	中村 洋介（群馬大学大学院工学研究科）
作題WG 主査	片山 靖（慶應義塾大学理工学部）
作題WG 副主査	神谷 信行（横浜国立大学工学部）
オリンピックWG 主査	米澤 宣行（東京農工大学大学院工学系）
広報WG 主査	杉村 秀幸（青山学院大学理工学部）

### 委 員

井上 正之（東京理科大学理学部）  
今井 隆志（理化学研究所）  
岩藤 英司（東京学芸大学附属高等学校）  
上野 幸彦（早稲田大学本庄高等学院）  
尾池 秀章（東京農工大学大学院工学系）  
大島 幸一郎（京都大学大学院工学研究科）  
大嶋 正人（東京工芸大学工学部）  
小倉 賢（東京大学生産技術研究所）  
小鹿 一（名古屋大学大学院生命農学研究科）  
片岡 正光（小樽商科大学商学部）  
柄山 正樹（東京女学館中学・高等学校）  
木原 伸浩（神奈川大学理学部）  
久保 謙哉（国際基督教大学教養学部）  
車田 研一（横浜国立大学環境情報研究院）  
河野 俊哉（暁星中学・高等学校）  
越野 省三（奈良県立奈良高等学校）  
小林 憲正（横浜国立大学大学院工学研究院）  
齋藤 俊和（早稲田中学・高等学校）  
酒井 秀樹（東京都立三田高校）  
鮫島 朋美（東京学芸大学附属国際中等教育学校）  
鳴田 豊司（奈良工業高等専門学校）  
下村 武史（東京農工大学大学院生物システム応用科学府）  
高木 慎介（首都大学東京大学院都市環境科学研究科）  
高橋 正（東邦大学理学部化学科）  
竹内 大介（東京工業大学資源化学研究所）  
立間 徹（東京大学生産技術研究所）  
田中 紀之（福岡教育大学教育学部）

田中 義靖（東京都立駒場高等学校）  
谷川 貴信（多摩大学目黒高等学校）  
田沼 務（埼玉県立上尾南高等学校）  
内藤 卓哉（株式会社東芝研究開発センター）  
成田 彰（東京工業大学附属科学技術高等学校）  
火原 彰秀（東京大学生産技術研究所）  
藤本 善徳（東京工業大学大学院理工学研究科）  
細矢 治夫（お茶の水女子大学名誉教授）  
前田 直美（品川女子学院）  
松岡 雅忠（駒場東邦中学・高等学校）  
松原 誠二郎（京都大学大学院工学研究科）  
真船 文隆（東京大学大学院総合文化研究科）  
湊 盟（横浜国立大学大学院工学研究院）  
宮村 一夫（東京理科大学理学部）  
宮本 一弘（開成中学・高等学校）  
三好 徳和（徳島大学総合科学部）  
森本 裕子（東京学芸大学附属国際中等教育学校）  
森安 勝（東京工業大学附属科学技術高等学校）  
山口 敏男（福岡大学理学部）  
山田 康洋（東京理科大学理学部）  
山中 弘次（オルガノ株式会社開発センター）  
吉田 哲也（筑波大学附属駒場高等学校）  
吉村 幸浩（防衛大学校応用化学科）  
渡部 智博（立教新座中学・高等学校）  
渡邊 賢（東北大学大学院工学研究科）

## オブザーバー

青山 好延（社団法人日本化学工業協会）  
木幡 雄季（アズ・ワールド・コムジャパン株式会社）  
国久 亜希子（独立行政法人科学技術振興機構）

## 全国高校化学グランプリ 2008 一次選考会場責任者

片岡 正光（小樽商科大学商学部）  
浅川 哲弥（北海道教育大学教育学部旭川校）  
岡崎 文保（北見工業大学工学部）  
糠塚 いそし（弘前大学大学院理工学研究科）  
平原 英俊（岩手大学大学院工学研究科）  
渡邊 賢（東北大大学院工学研究科）  
岩田 吉弘（秋田大学教育文化学部）  
大谷 典正（山形大学理学部）  
長尾 幸則（福島県立安積高等学校）  
内田 修司（福島工業高等専門学校）  
松川 覚（茨城大学教育学部）  
加藤 紀弘（宇都宮大学大学院工学研究科）  
工藤 貴子（群馬大学大学院工学研究科）  
上野 啓司（埼玉大学理学部）  
上野 幸彦（早稲田大学本庄高等学院）  
古田 寿昭（東邦大学理学部）  
板橋 英之（群馬大学大学院工学研究科）  
下村 武史（東京農工大学大学院生物システム応用科学府）  
窪田 好浩（横浜国立大学大学院工学研究院）  
松岡 史郎（新潟大学理学部）  
梅田 実（長岡技術科学大学工学部）  
高戸 孝司（富山県立高岡高等学校）  
水野 元博（金沢大学大学院自然科学研究科）  
中田 隆二（福井大学教育地域科学部）  
柴田 正実（山梨大学大学院医学工学総合研究部）  
藤森 邦秀（信州大学理学部）  
石田 勝（岐阜大学工学部）

西尾 学（岐阜県立恵那高等学校）  
板垣 秀幸（静岡大学教育学部）  
戸田 三津夫（静岡大学工学部物質工学科）  
小鹿 一（名古屋大学大学院生命農学研究科）  
堀内 孝（三重大学大学院工学研究科）  
中川 雅博（京都府立桃山高校）  
田中 秀明（大阪星光学院）  
片田 直伸（鳥取大学大学院工学研究科）  
和田 英治（島根大学総合理工学部）  
佐竹 恭介（岡山大学大学院自然科学研究科）  
古賀 信吉（広島大学大学院教育学研究科）  
和泉 研二（山口大学教育学部）  
武田 清（鳴門教育大学学校教育学部）  
谷 弘幸（愛媛大学総合科学研究支援センター）  
渡辺 茂（高知大学理学部）  
宮崎 義信（福岡教育大学教育学部）  
中嶺 裕之（久留米工業高等専門学校）  
河済 博文（近畿大学産業理工学部）  
滝澤 登（佐賀大学理工学部）  
真木 俊英（長崎大学医歯薬学総合研究科）  
村上 裕人（長崎大学生産科学研究科）  
小川 芳弘（熊本大学大学院自然科学研究科）  
津村 朋樹（大分大学工学部）  
白上 努（宮崎大学工学部）  
米澤 弘夫（鹿児島大学理学部）  
宇地原 敏夫（琉球大学理学部）

## 第40回国際化学オリンピック準備問題翻訳協力者

石谷 暖郎（東京工業大学資源化学研究所）  
伊藤 真人（創価大学工学部）  
稻垣 怜史（東京工業大学資源化学研究所）  
梅村 泰史（防衛大学校応用化学科）  
大浦 泰嗣（首都大学東京理工学研究科）

工藤 一秋（東京大学生産技術研究所）  
工藤 宏人（神奈川大学工学部）  
下嶋 敦（東京大学大学院工学系研究科）  
杉本 渉（信州大学繊維学部）  
墨 智成（豊橋技術科学大学工学部）

高橋 嘉夫 (広島大学大学院理学研究科)  
高山 努 (大同工業大学教養部)  
豊田 栄 (東京工業大学大学院総合理工学研究科)  
中島 清隆 (東京工業大学応用セラミックス研究所)  
野村 幹弘 (芝浦工業大学工学部)  
秦 猛志 (東京工業大学大学院生命理工学研究科)  
原野 雄一 (東京工業大学グローバルエッジ研究院)

向山 義治 (東京電機大学理工学部)  
森 敦紀 (神戸大学大学院工学研究科)  
山口 育 (名古屋大学大学院工学研究科)  
山崎 健 (National Research Council Canada)  
横井 俊之 (東京工業大学資源化学研究所)  
吉田 紀生 (分子科学研究所)

#### 第40回国際化学者オリンピック代表候補訓練協力者

安藤 耕司 (京都大学大学院理学研究科)  
市村 彰男 (大阪市立大学大学院理学研究科)  
伊藤 謙二 (大阪府立工業高等専門学校)  
岩澤 伸治 (東京工業大学大学院理工学研究科)  
大島 巧 (大阪大学大学院工学研究科)  
尾中 篤 (東京大学大学院総合文化研究科)  
工藤 一秋 (東京大学生産技術研究所)  
古賀 信吉 (広島大学大学院教育学研究科)  
小谷 明 (名古屋大学大学院理学研究科)

昆野 昭則 (静岡大学工学部)  
佐藤 正明 (大阪府立大学総合教育研究機構)  
辰巳 敬 (東京工業大学資源化学研究所)  
中山 亨 (東北大学大学院工学研究科)  
濱口 宏夫 (東京大学大学院理学系研究科)  
保科 貴亮 (東北大学大学院工学研究科)  
町田 信也 (甲南大学理工学部)  
森 敦紀 (神戸大学大学院工学研究科)

#### 事務局

遠藤 滋 (社団法人日本化学会企画部)

富樫 紀子 (社団法人日本化学会企画部)

岸田祐理子 (日本化学会北海道支部事務局)  
菊地 珠実 (日本化学会東北支部事務局)  
美園 康宏 (日本化学会関東支部事務局)  
森川 隆雄 (日本化学会東海支部事務局)

廣澤 修次 (日本化学会近畿支部事務局)  
大野木 恵子 (日本化学会近畿支部事務局)  
藤田 美恵 (日本化学会中国・四国支部事務局)  
平川 千春 (日本化学会九州支部事務局)

※所属は2008年4月時点